

特114

666

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

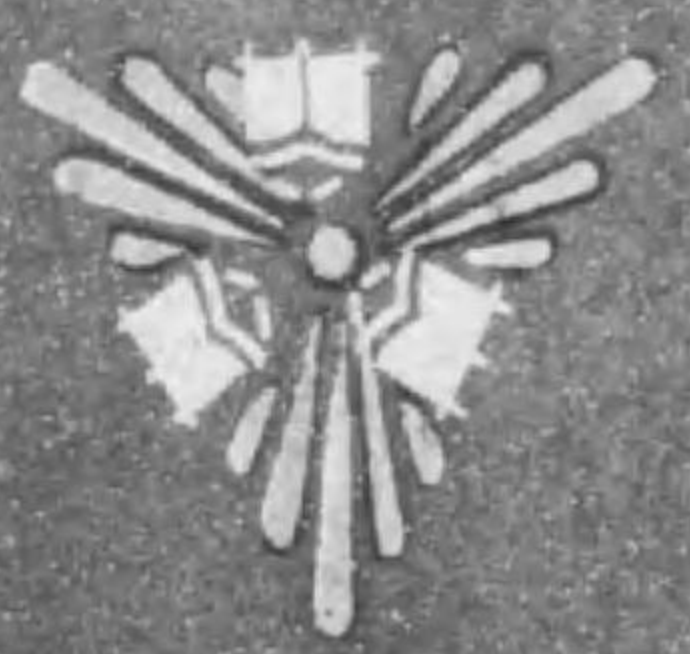
始



特許

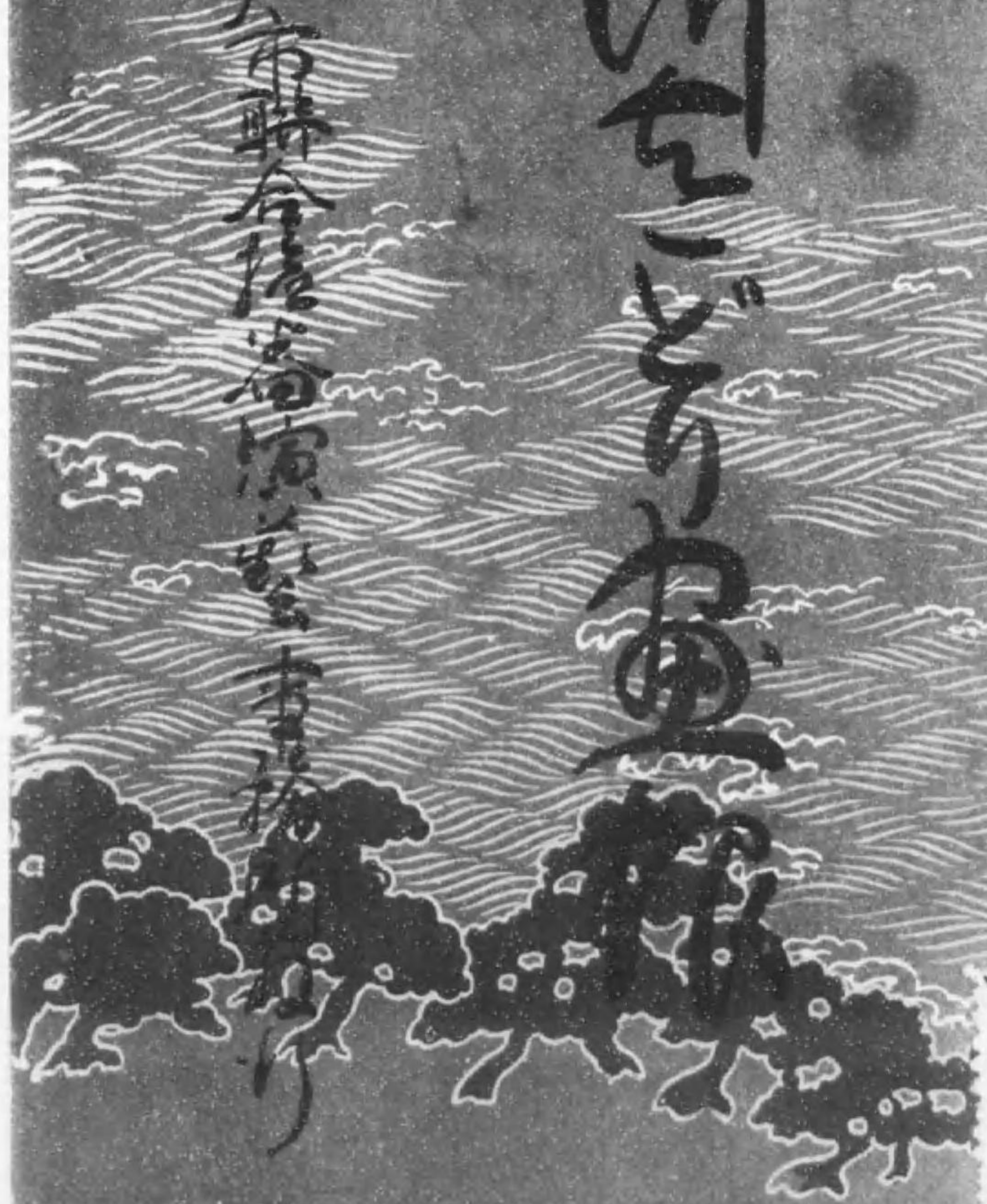
特許

第一回貿易勸業展覧會出品共進會録興



湊川をいどりお魚

神戸市聯合漁業協会の会誌



特114
666

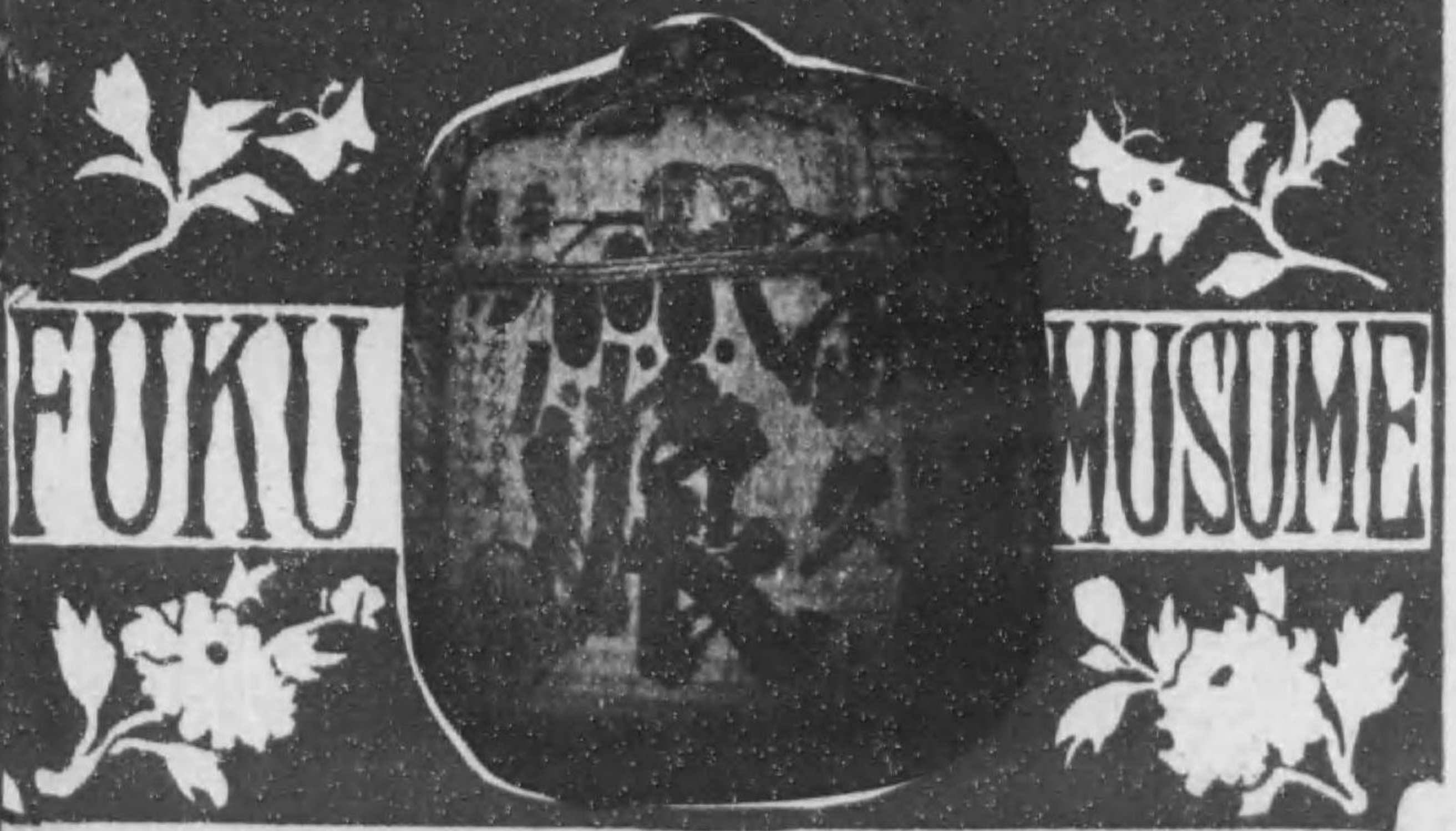
花

海

平舟遊

5.15

めき
メスムクフ



真綿・蚊帳・羽衣印吹止真綿小袖。製綿各種



工場
本店 大阪東區南久寶寺町心齋橋通角
大阪府下東成郡天王寺村
電話天下茶屋三七番

神五 月丁市元町 支店 電話本番 二八四四三番

ル-ビラクサ



五九三二本電町西兵庫

店北野菅

地番十四目丁七町元戸神

店酒洋上壇

〇八六三本電目丁三町榮戸神

店張出邑山

特約店

玉川樓表構

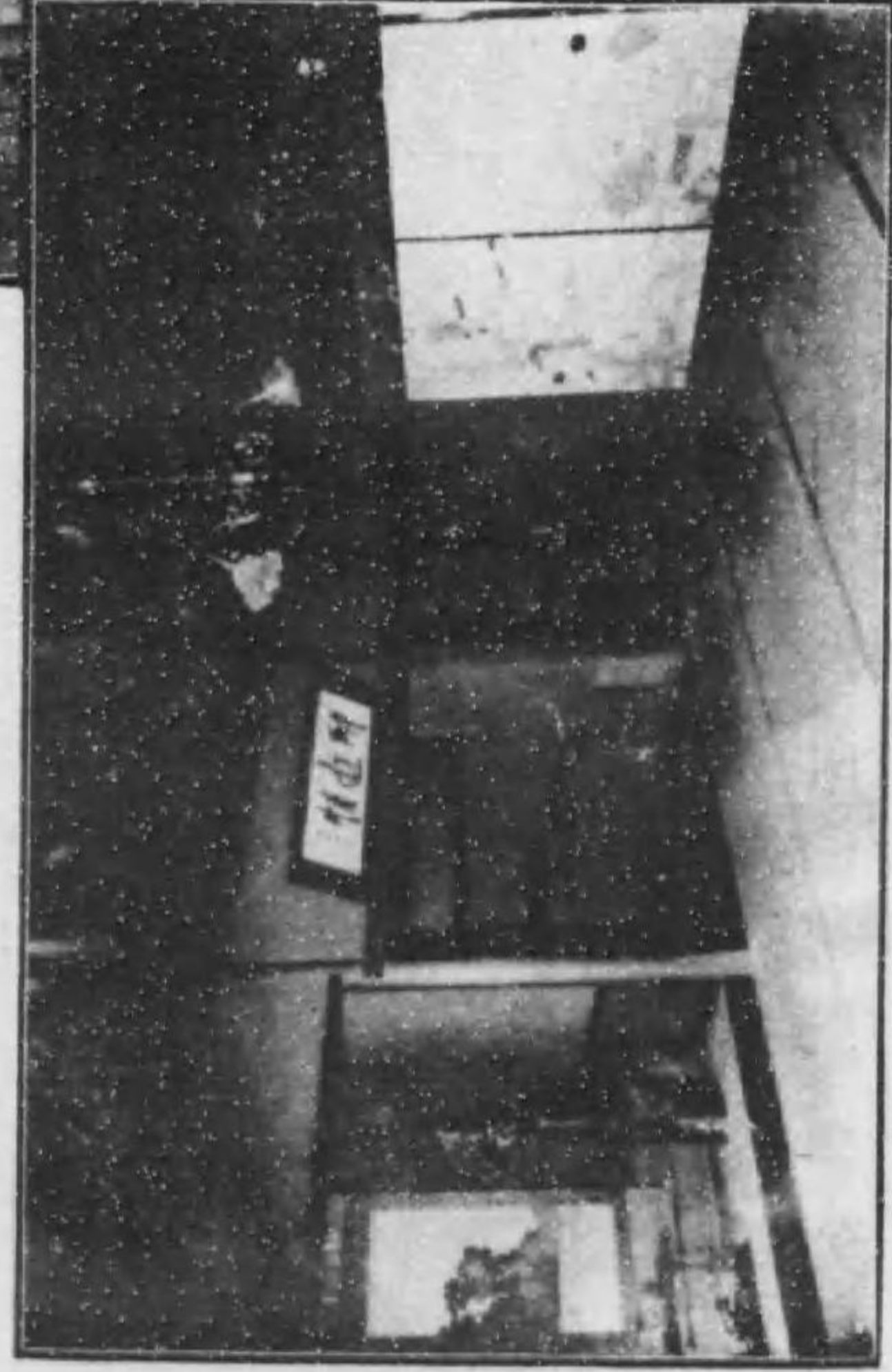


目丁六通狹長北市戸神

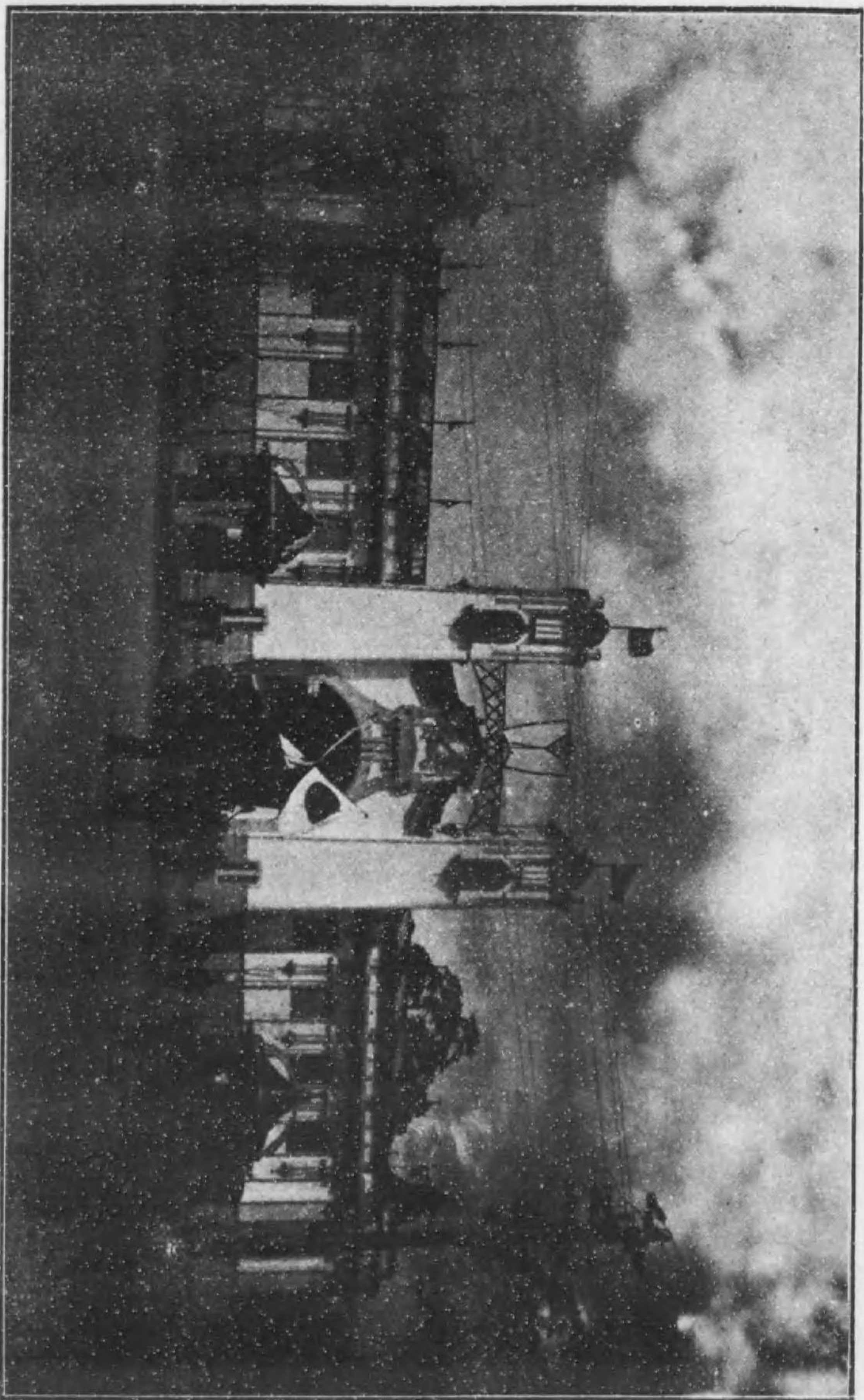
楊川五

番九四二局本話電長

會席 ———— 御調理



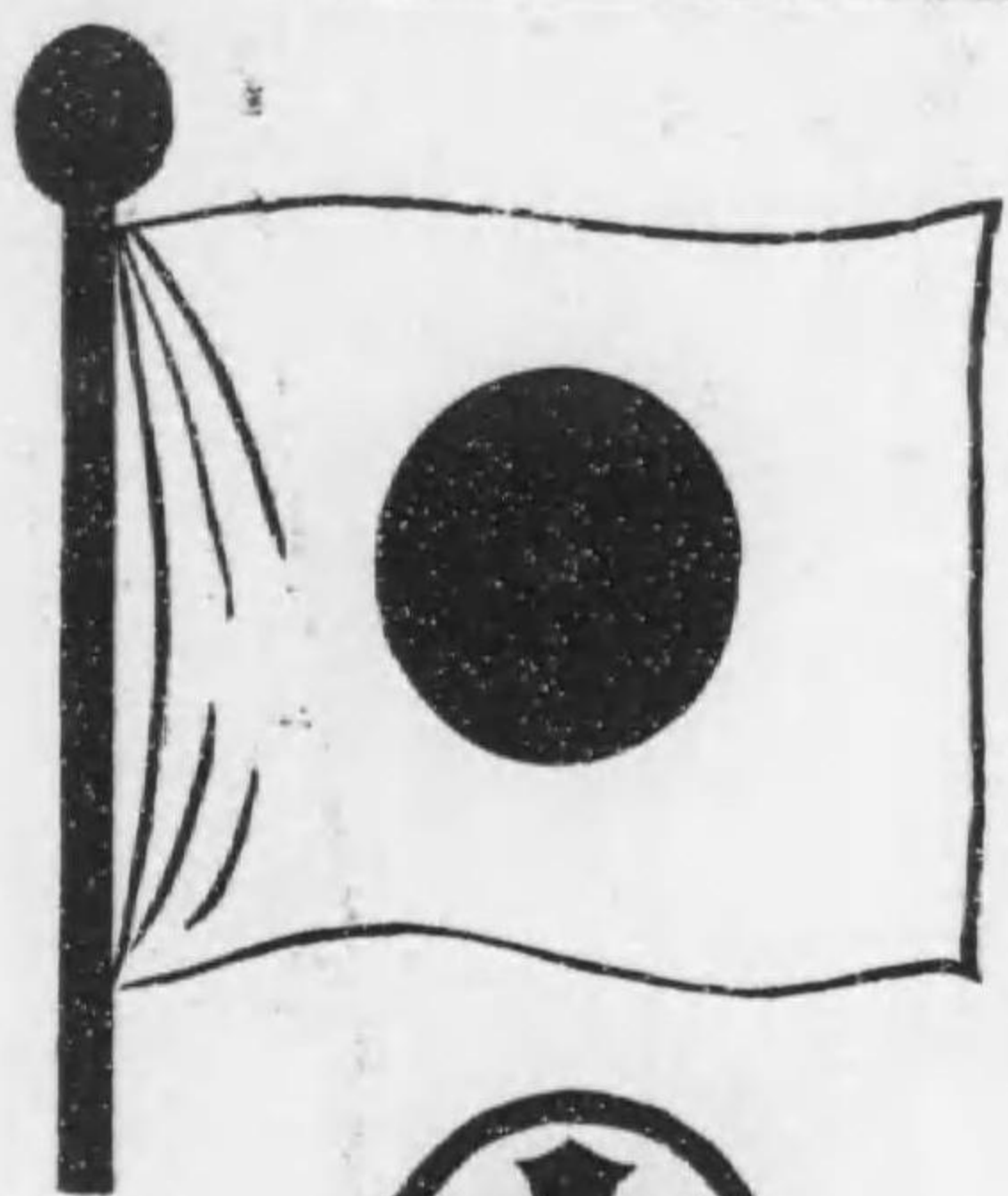
同池の問



門正會進共品產製易貸回二第

製品課目

船舶用諸旗、裝飾用諸旗
 祝賀用諸旗及優賞旗
 組合旗、講旗、附屬品一切



片岡旗店

神戸相生町五丁目(四二三)

(電話本局三一三九番)

創業明治三十二年

THE
MINATOGAWA ODORI
OR
CHERRY DANCE.

Promoted by the Kobe Kenban Union, in connection with the Second Export Commodities Exhibition, at Minatogawa, Kobe, March-May, 1914.

Spring, Summer, Autumn, and Winter are represented in turn in the various dances, there being 11 scenes altogether during each performance.

SCENE 1.

Congratulations to His Majesty the Emperor on the coming Coronation Celebrations.

The Battle of Minatogawa, when Nanko was beaten by Ashikaga, is commemorated in this scene.

SCENE 2.

New Year at Nagata Temple, near Kobe. The customary seasonable offerings are displayed, and the dance represents the ancient superstition of driving away the evil spirits.

SCENE 3.

Kiyomori's Tomb, before which, by song and gesture, the fame of Kiyomori (Kiyomori's Tomb)—who founded Hyogo Harbour—is gracefully interpreted.

SCENE 4.

The Imperial Detached Palace at Tsukimiyama, Suma, and the Murazame-do, residence and Fujino Chaya. Lord Yukihiro Narihara, one of the most celebrated of Japan's poets, wrote a song on the subject of this scene, and it is on this that the dance is based.

妻駒が林の下草の露けき夢や結ぶらむ『老杉高くそびわたるいがきのあたりゆふかけて光
ほのめく春日野の野守の昔しらねども今も飛ぶ火の螢狩神代の風の涼しさよ』けふ星合に
かさゝぎの渡せるはしをかよひくる御花使のはな扇末廣かれと祝ふなり五雲たなびく殿閣
に微涼動きて大庭の松のしらべも一聲の秋風樂かおもしろや『暑さ流れし初秋の池の心も
しづかなる雲居の奥の夕まぐれおばしまちかく見そなはず三十六峰くればて今日盂蘭盆
にともす火ややみに浮べる大文字』久方の雲居にまがふ沖つ浪しのぎて通ふ百船の立つる
烟も賑はしく金銀珠玉つみ重ね棹舵ほさぬ君が代の千代に榮むこの港武庫山おろし一し
きり秋の海原霧はれて月さへ浪にうき寶『瑞のみあらか玉垣も皆一色にしろがねの臺とな
りて降り積る雪しづかなる朝ばらけ空にや神も見ますらむ』吹くものごけき神風の伊勢の
内外の宮めぐりうたふ歌さへいさましましきたけの都の旅ごろもはる咲く花の白ゆふに神の心
もいちじろし『海原遠く明け渡る二見の浦の朝日影あきらけき世に二ならびならぶいはは
のゆるぎなき天つ日嗣の御代始八洲にあまる御惠の浪の鼓も萬歳の盡させぬ聲や調ぶらむ

神戸部踊妓

同 同 東 同 同 同 同 同 同 中 同 東 同 元
 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢
 三 愛 惠 惠 歌 繁 か 吉 と 花 萬 千 金 政 か
 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
 光 助 美 津 榮 奴 こ 彌 ぼ 代 代 玉 郎 鶴 太

同 中 元 中 同 同 東 同 同 同 同 同 同 中 東
 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢
 花 若 玉 小 千 蝶 好 ゆ 光 吉 め 花 須 ち と 三
 千 之 歌 太 美 忍 し
 幸 代 助 津 玉 々 子 う 駒 次 郎 玉 三 子 子 福

同 中 本 同 同 同 中 元 中 同 東 同 同 同 中
 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢 檢
 松 金 玉 笑 琴 梅 政 小 も 市 秀 梅 高 か 福 桃
 と 千 千
 子 彌 代 葉 松 勇 榮 廣 め 幸 勇 幸 吉 じ 代 代

SCENE 5.

Kasuga Temple, Nara, with the "Thousand Lanterns." The dance represents the fireflies beneath the criptomeras.

SCENE 6.

The Weaver Festival, close to the Imperial Palace at Kyoto.

SCENE 7.

Kinugasayama at the time of the Bon Matsuri. An illuminated device on the mountain-side shows "大" which is the "Great" symbol in the Buddhist ritual.

SCENE 8.

Night in Kobe Harbour. The shipping in port is seen by the light of the moon, and the dance is intended to illustrate the rapid advance made by Kobe as a port and commercial centre.

SCENE 9.

A snowstorm at Usahachiman Temple.

SCENE 10.

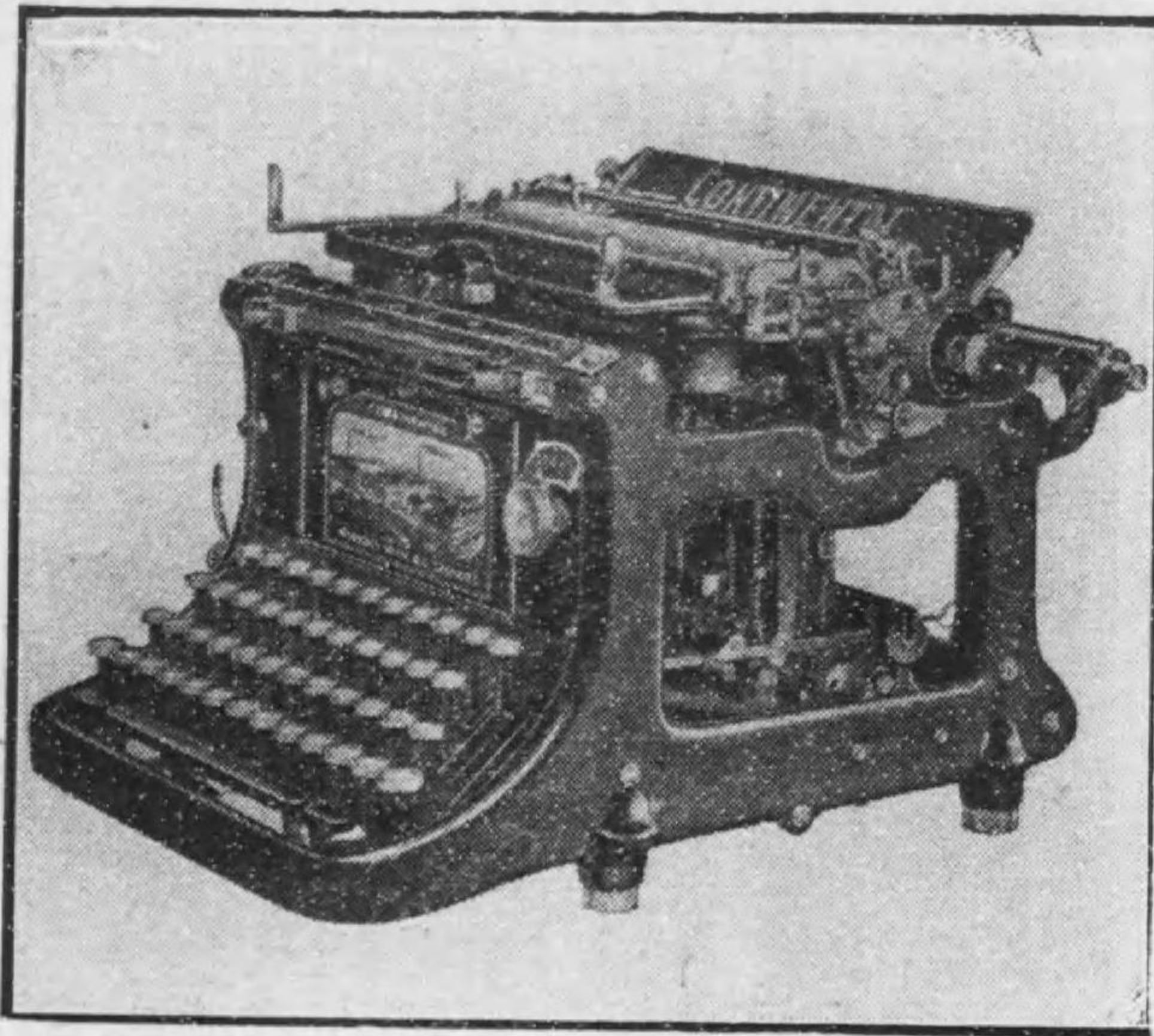
Daizingu Temple in the Divine Park (Shinyen) at Ise at the season of the cherry blossoms.

SCENE 11.

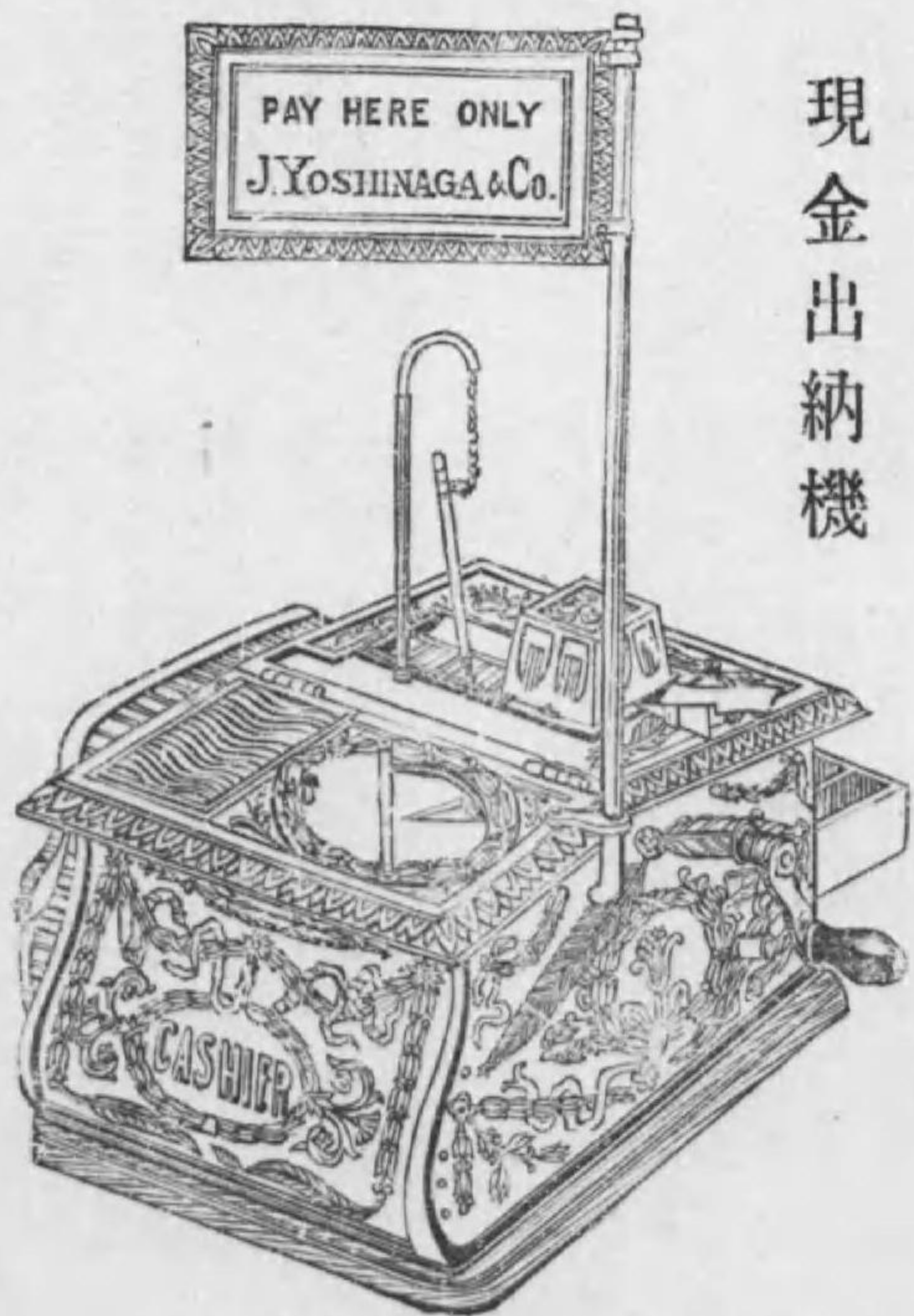
The Futami Rocks at Ise, the series of dances concluding with a brilliant representation of the rising sun at Futaminoura.



最新式日本商店向改良品
コンチネンタル、タイプライター



御申込次第明細ナル目錄説明書ヲ御送付可致候



現金出納機

自働的ニ
最モ輕便ニ
最モ明細ニ

壹錢ノ間違モナク現金
ヲ記帳精理スル新機械

J. YOSHINAGA & Co.

(宮三長電) 會商永芳元入輸 (町宮三戸神)

朝日檢地方
若奈奈愛歌千二喜以要小小一々金
良良代久
金江米 繁 香龍多松 福三葉次吾

ま照花若小玉玉金
兵

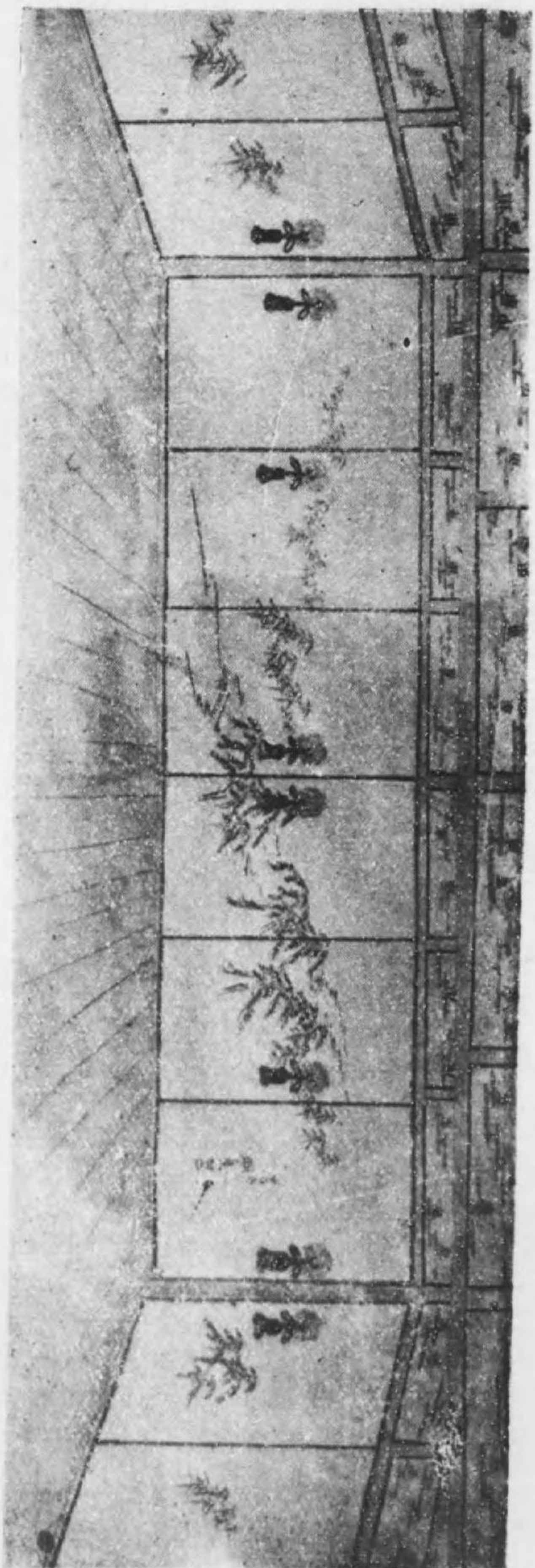
ん葉吉菊妻江勝衛



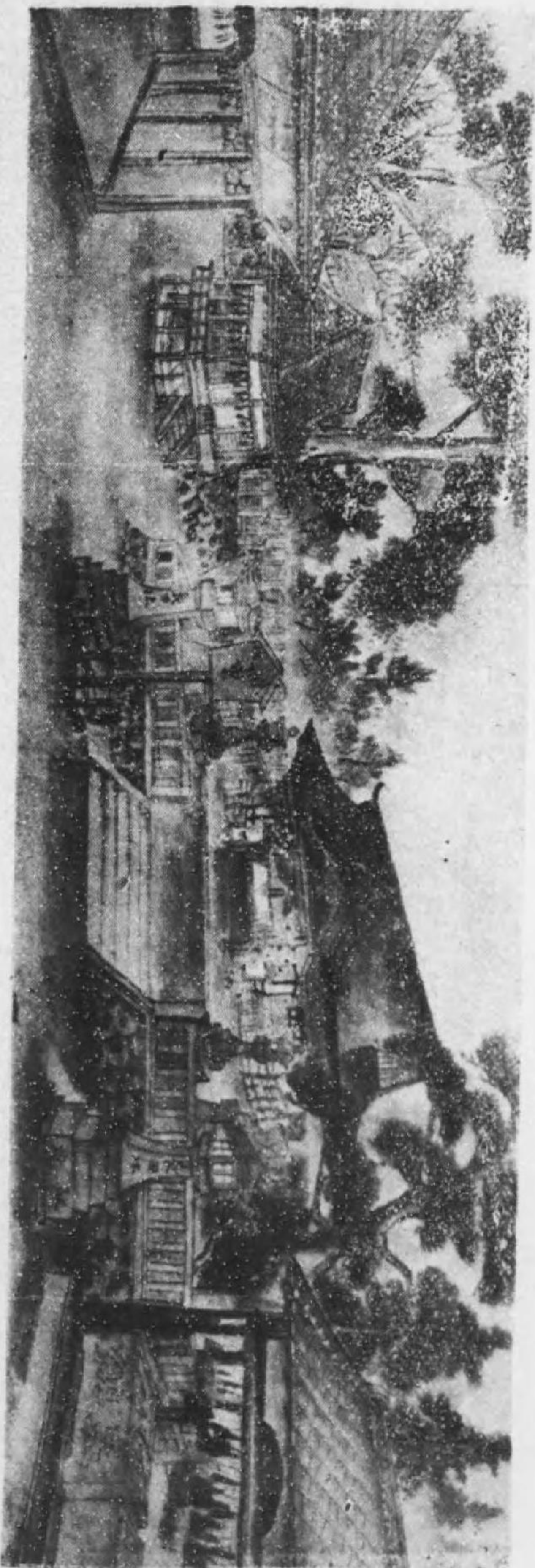
達用御省内宮

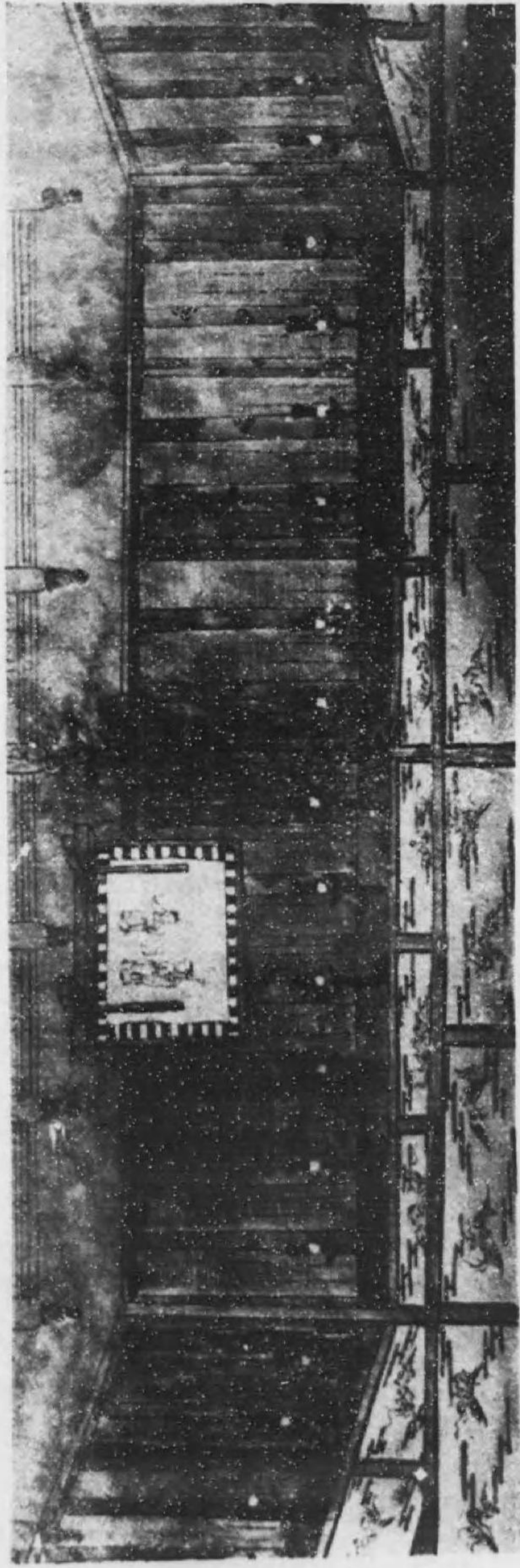


(第一) 昔の湊川の景

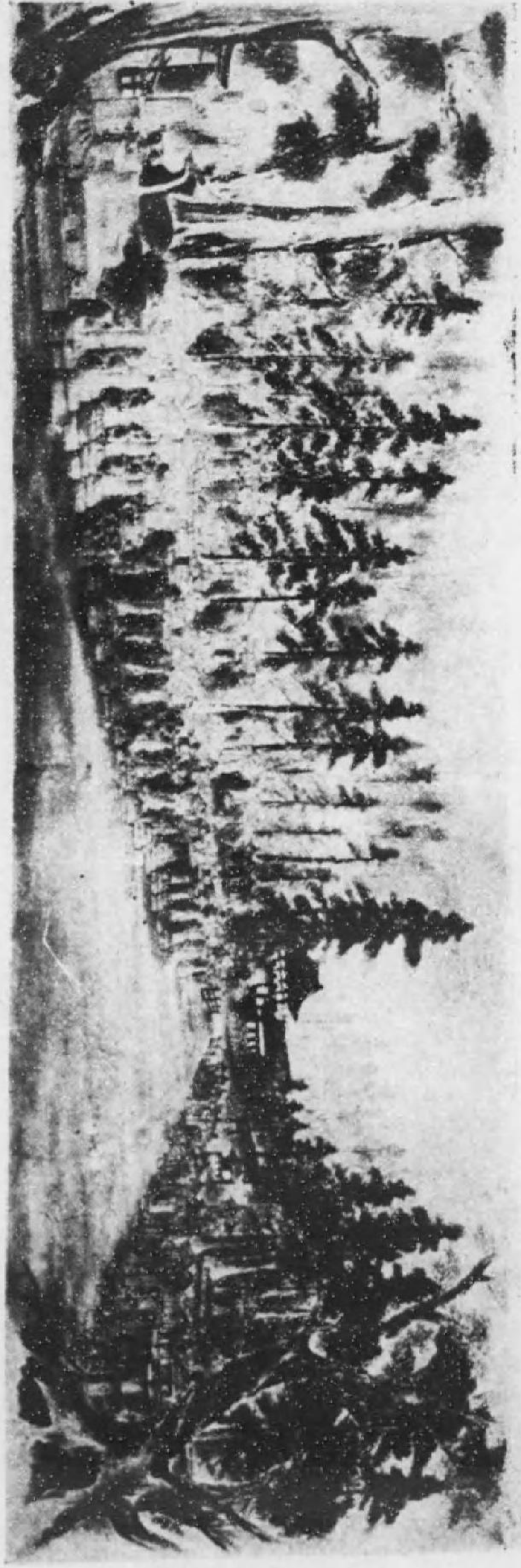


(第二) 長田神社遺構式之景

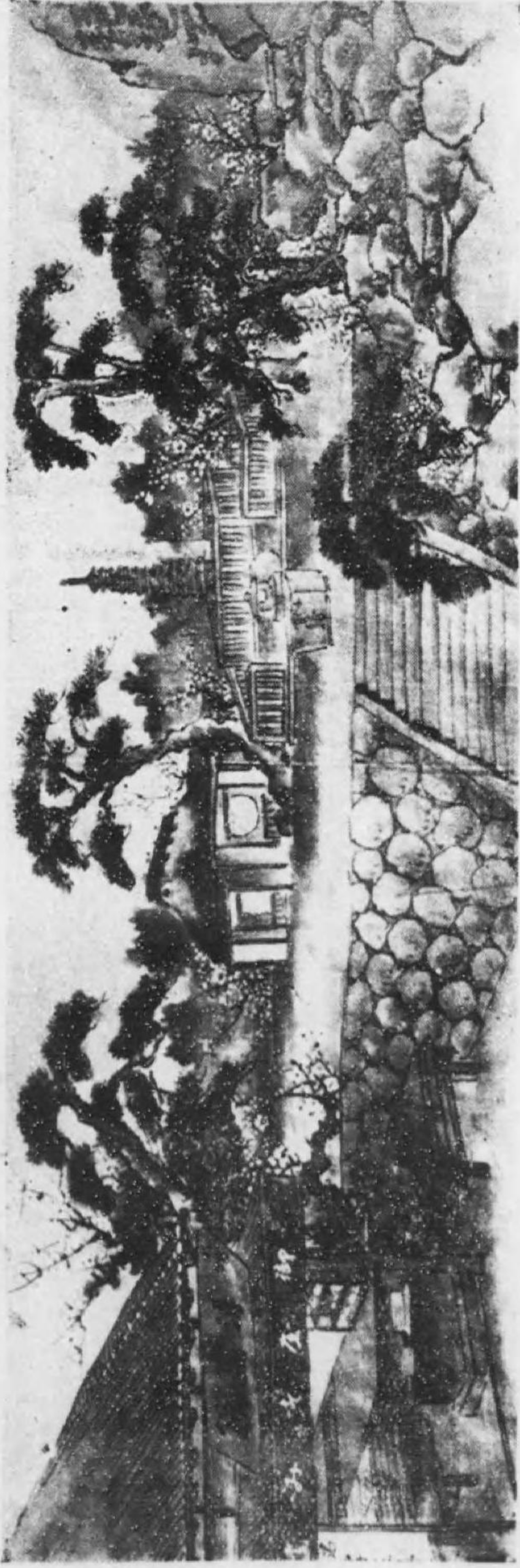




第六 禁中之七夕



第五 春日神社禁符之景



第三 清盛塚程邑塚之景
紅梅白梅笑み初めた風情

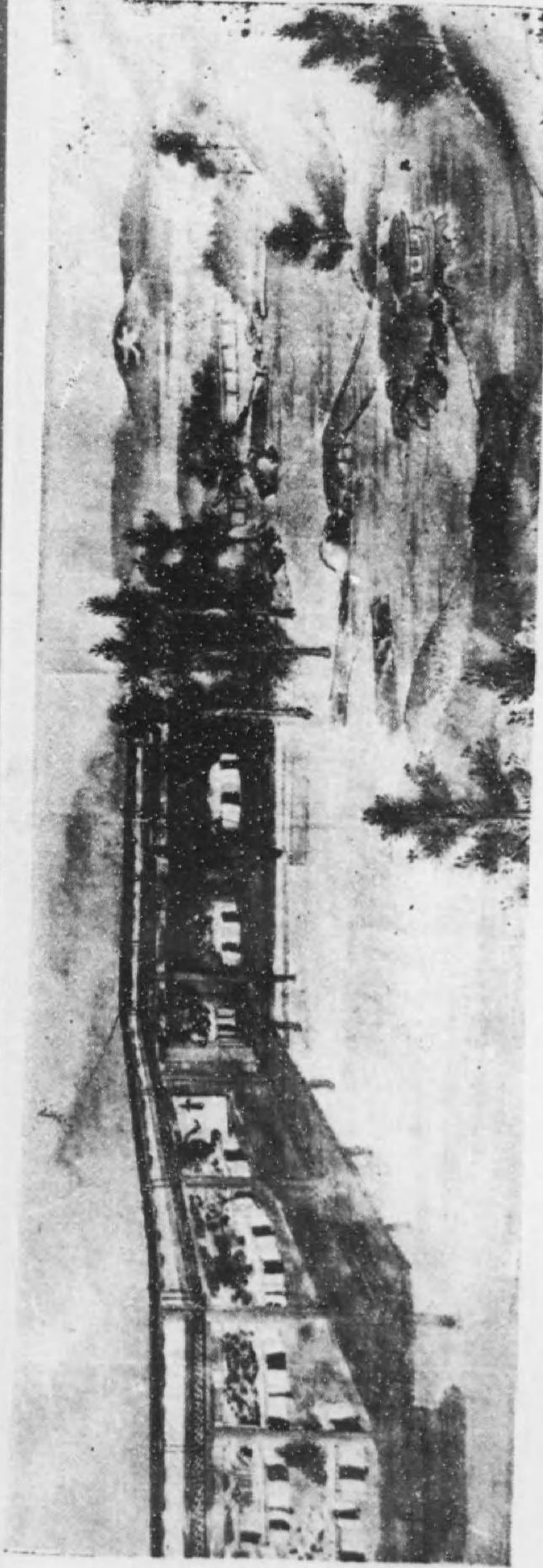


第四 須磨前田の杜若月見山の
武庫離宮麻の茶屋之景

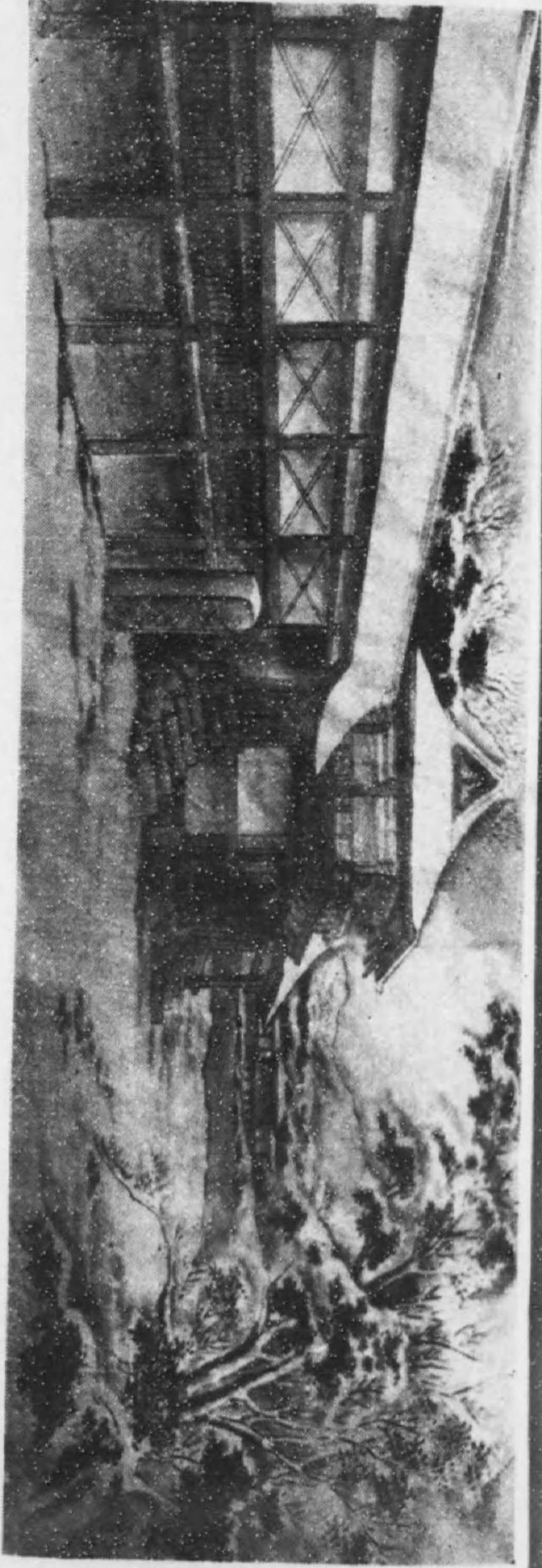
(第八) 月の扇港兵神兩港之夜景



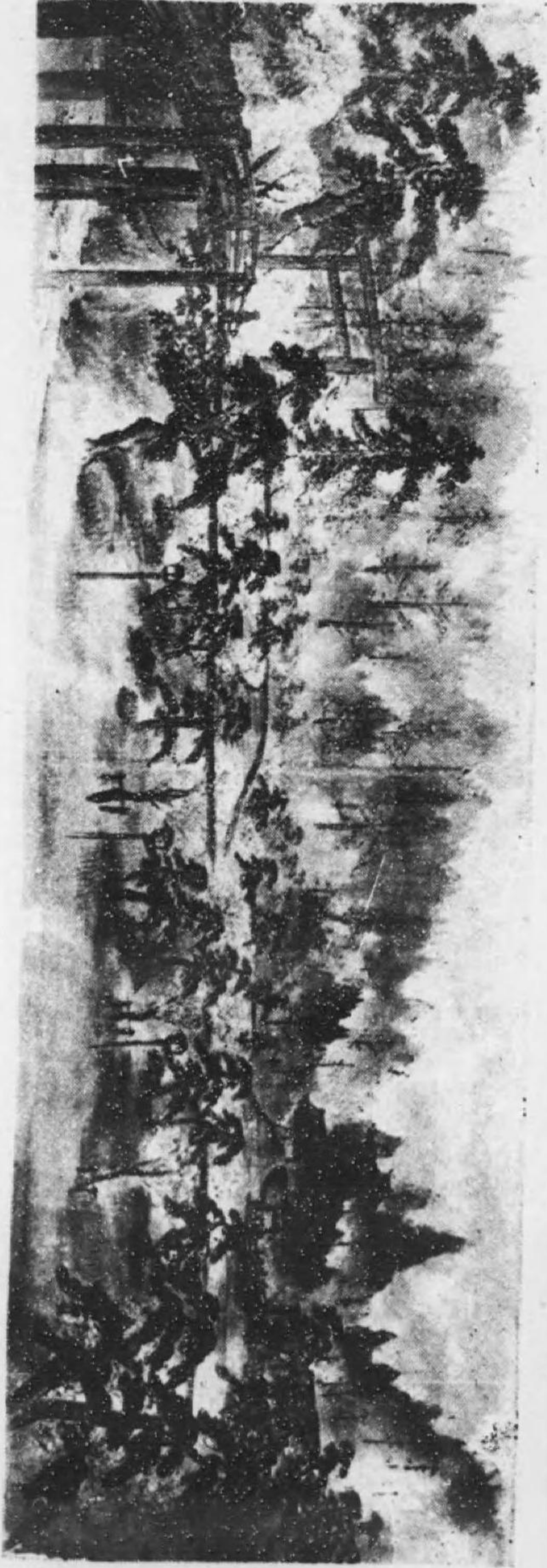
(第七) 九重の孟蘭盆
皇内虎之間之景

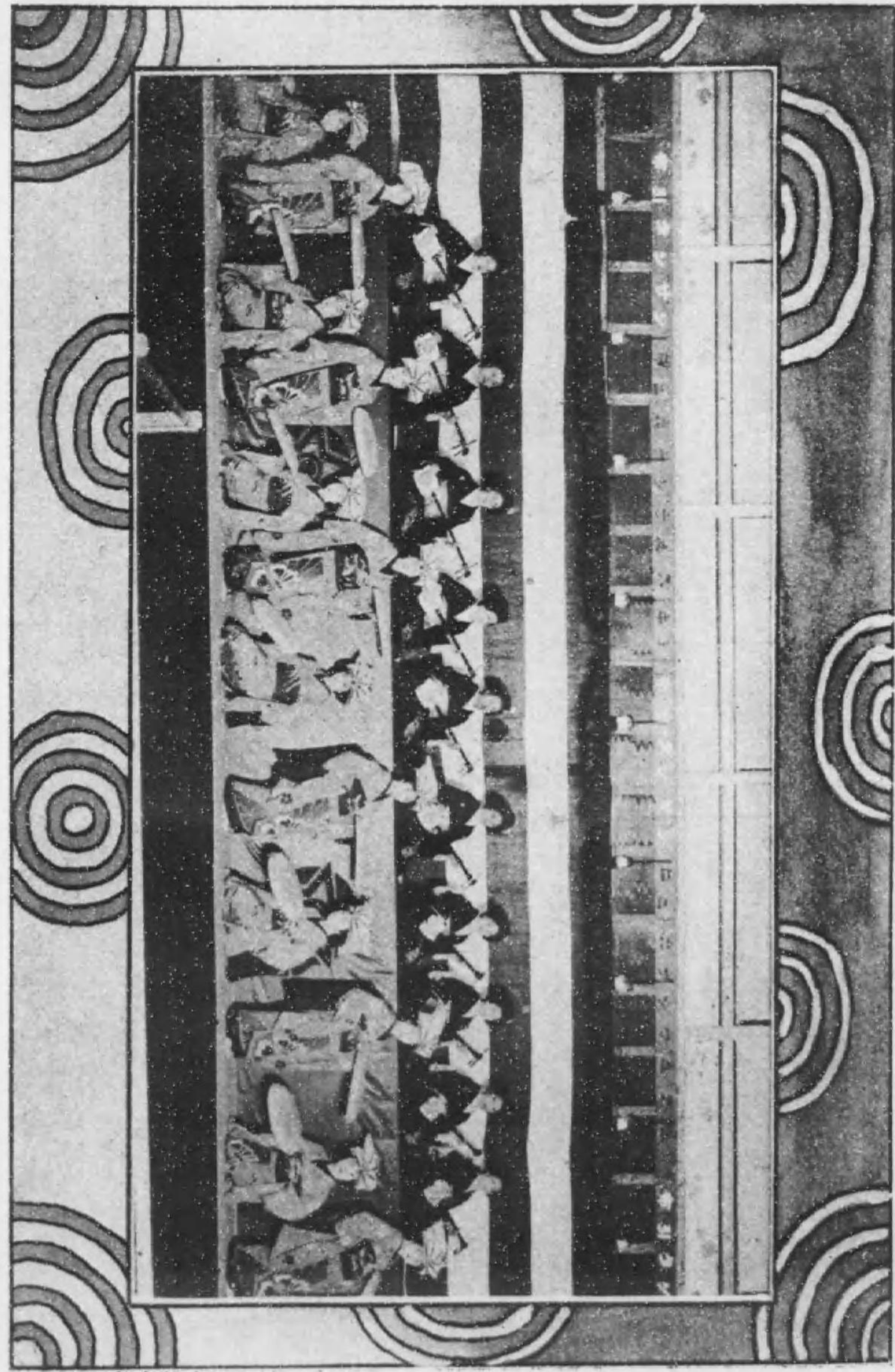


(第九) 宇佐八幡白妙の
雪降り積る社頭之絶景



(第十) 伊勢
神寂で渡つた春の景



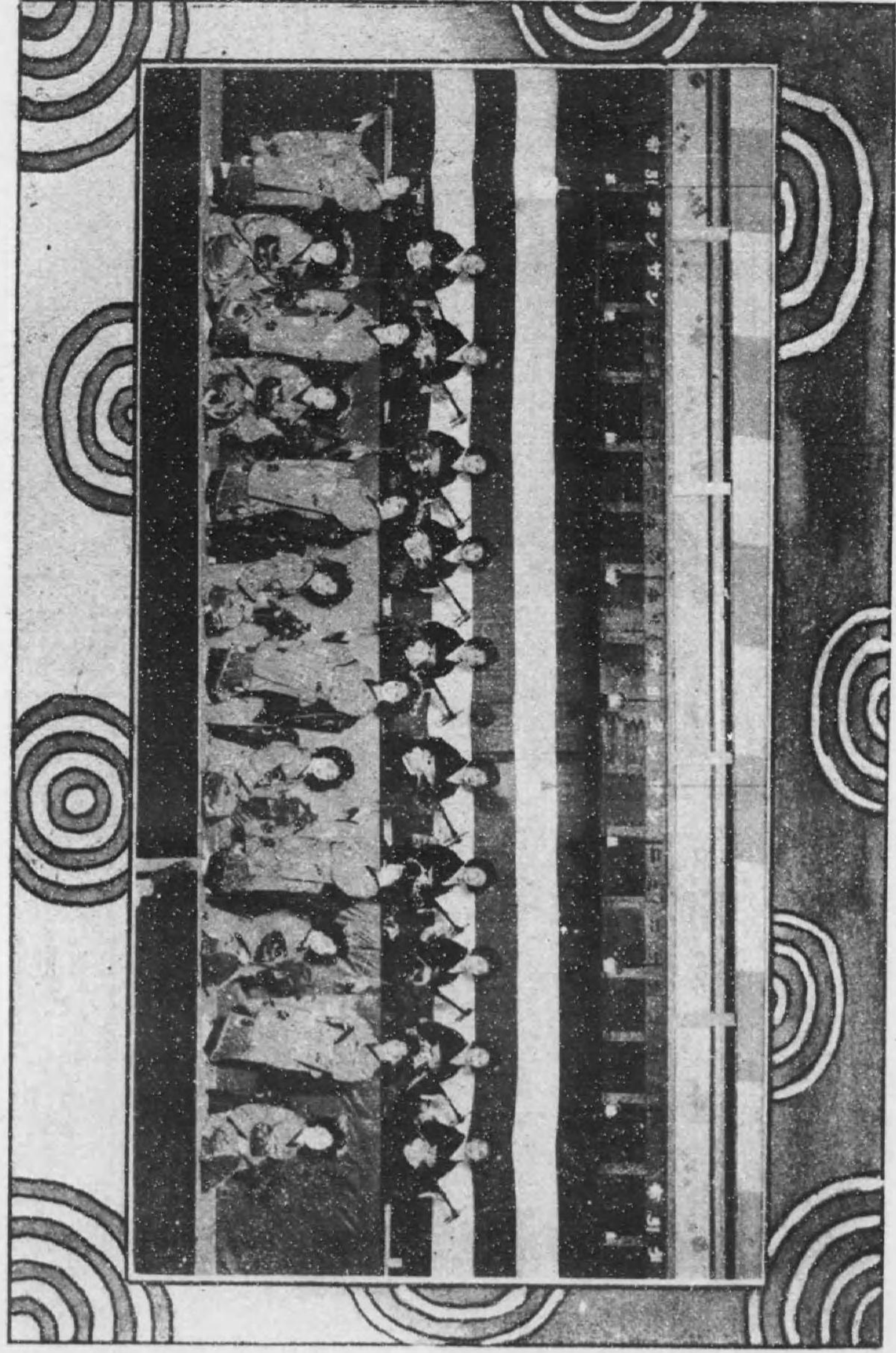


神戶部出演者

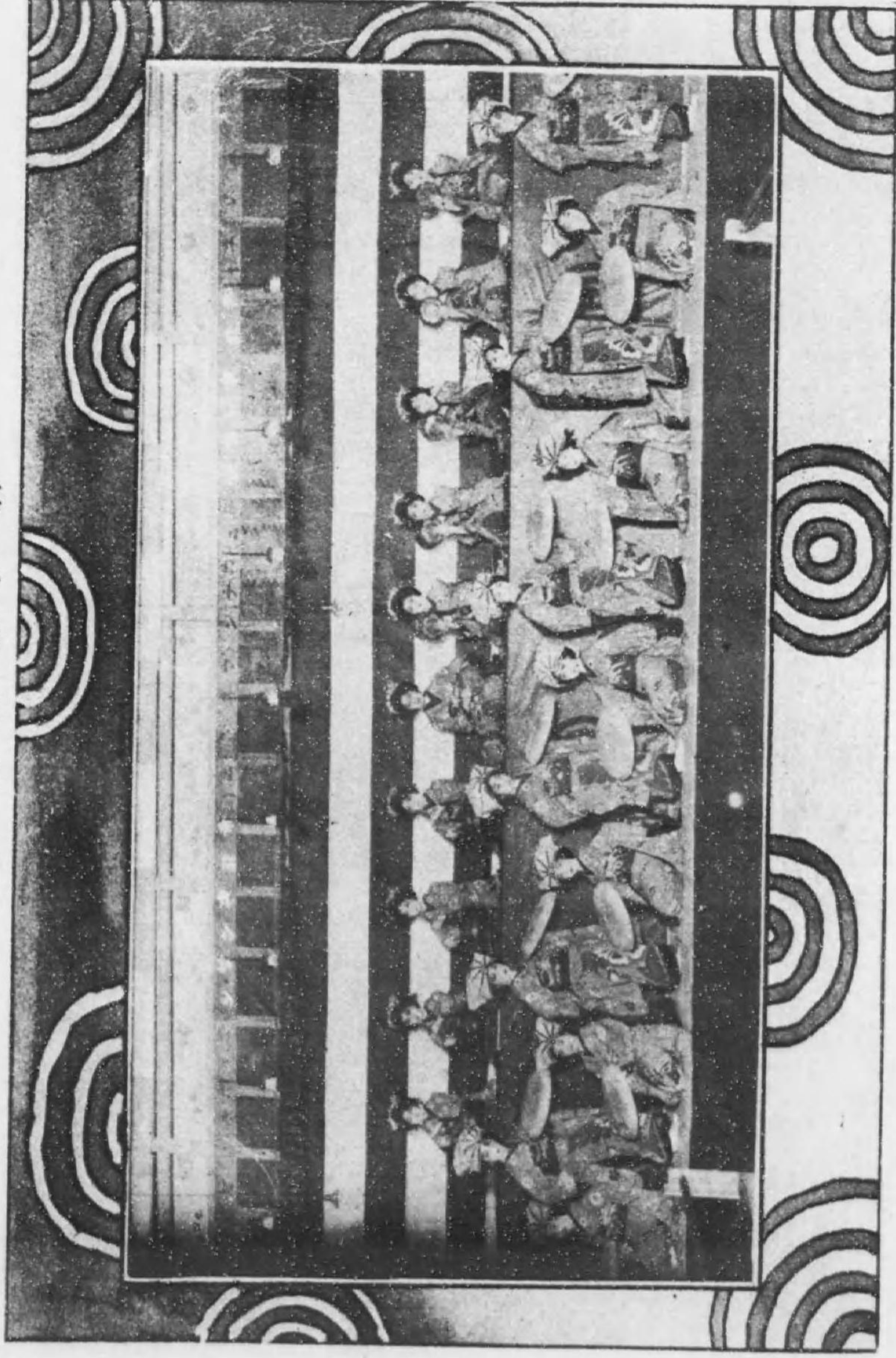
(第十一) 浦見の花



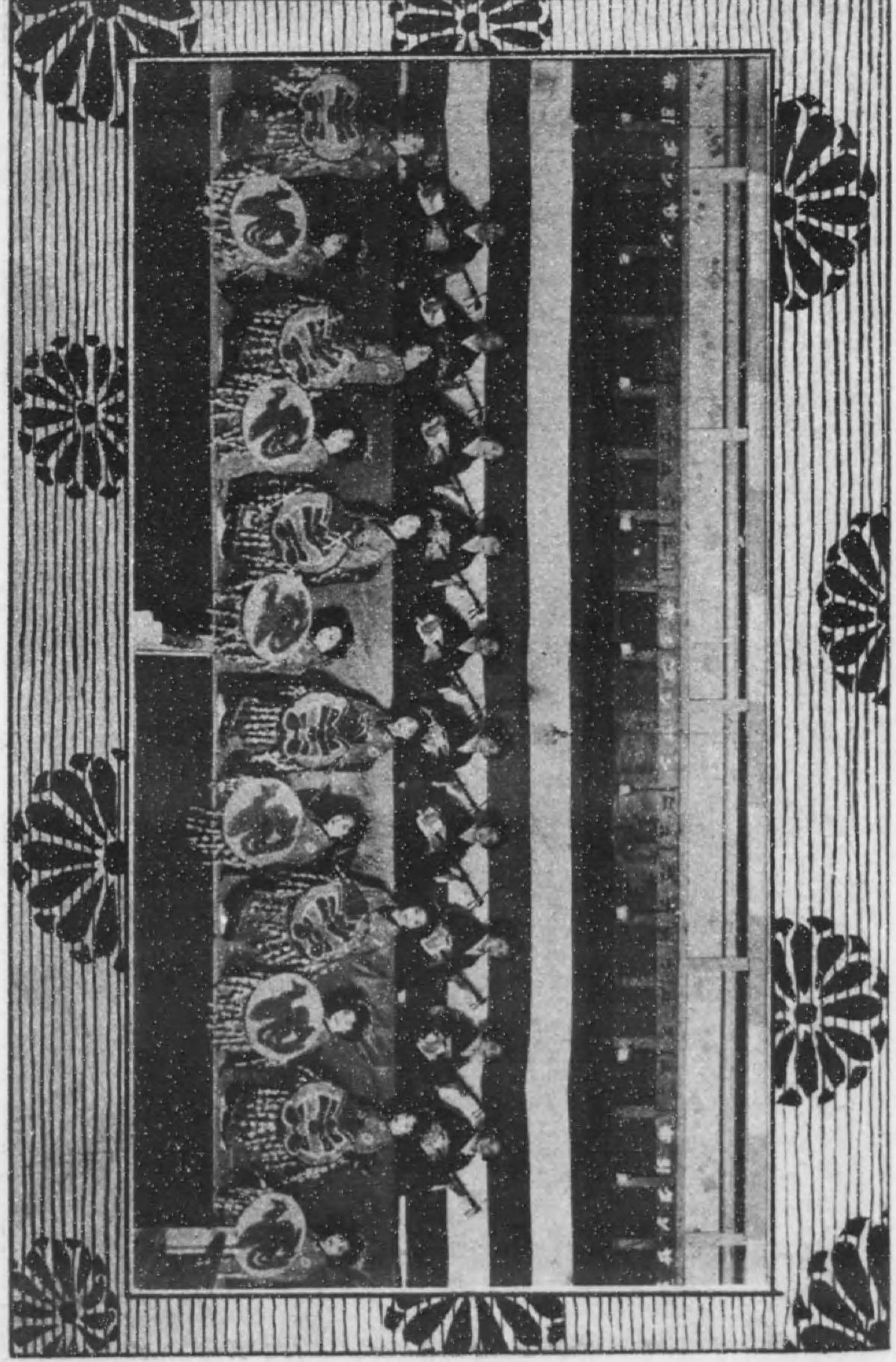
櫻花咲き満ちたる浦見の景色



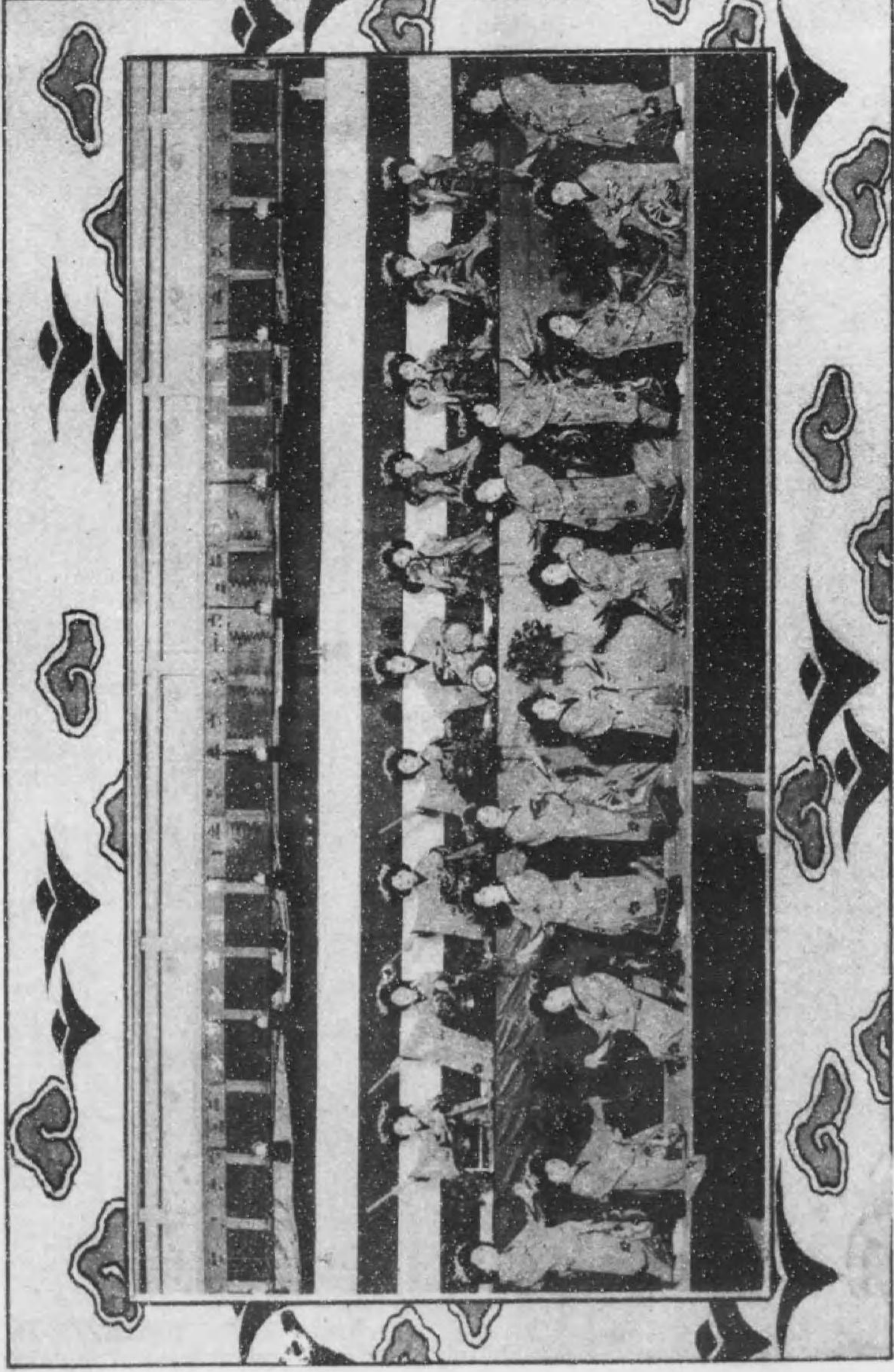
福 原 部 出 演 者



神 戶 部 出 演 者



者 演 出 部 辰 柳



者 演 出 部 原 福

賜宮内省御買上ノ榮

御婦人用髮飾其他
鼈甲細工品調製

鼈甲美術品
蓄音器及音譜
製造販賣元

マスイ商店

神戸市元町通一丁目
特電本局四〇三三番



廉價確實なるは

當店に限る

電本局二〇七番

諸眼鏡専門



西村眼鏡店

■ 神戸市元町五丁目 ■
■ 電本局三九一 ■

酒清等優



元賣發造釀

町崎川庫兵

店本野菅

番二八四特局本話電

賣販國內易貿茶製

式一器茶ヒ一茶紅

●電本局一八六八番●



●北長狹通六丁目●

▲半ふり●小間物▼

全
ふ
り
吉

神戸市元町一丁目
電本局二二五四番

■電本局

■元町通

るあ用信てく

古番一で戸神

四二一四番■

六丁目山側■



店綿



・ラーテスカ・子葉式洋・
子葉本日 式京東

堂神盛宮二

番〇五五二局本電・目丁三所元戸神

KOBEYA
SHOESTORE

は神戸屋



強くて狂はぬ

●人ハ武士

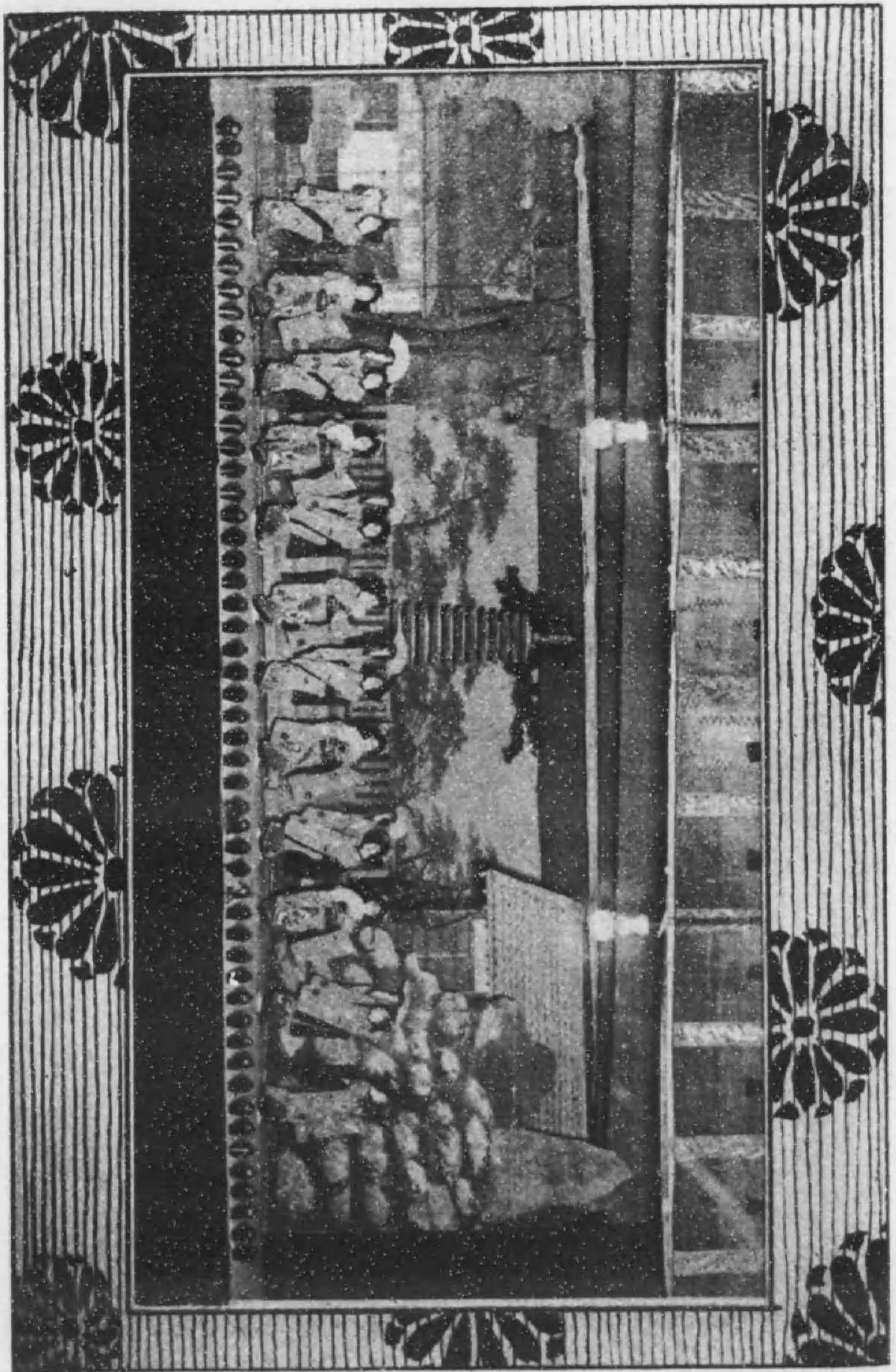
目丁二町元市戸神
四八七二周本話電
六二九三阪大替振

目種業營

電電電電抵裝感發電X無	六平蓄眼寶貴歐
力力力天飾應機氣線	製ロ
振分沈景抗小コ發扇電	造
動離澱光變イコ風線信	部
機機機機機器ルル機機機	類盤機類輪品計

店商計時 中

目丁一町川瀬逆南庫兵



青森之塚神戶部出演者

會席御料理

御好ニ應ズ

商號
登錄

吟松亭

電話本局特二九〇

神戸市北長狹通六丁目

セ
ル・ラシヤ
洋服・はかま
羽織・厚司
各種

神戸市元町四丁目濱側

片山洋服店

電話本局二八七七番

本店 大阪心齋橋二丁目

片山洋服店

神 戶 部 地 方



尾 高 檢 東
Takao
松 中 檢 中
Shimematsu

み 五 小 檢 元
Koemi

若 市 檢 中
Iiwaka
榮 吉 檢 中
Kitie

神 戶 部 鳴 物



檢 東
福 愛



檢 東
榮 照



檢 中
奴 久

檢 東
子 吉



檢 中
光 梶



方 地 部 戸 神



榮 品 檢元
Shinae
津 美 檢中
Mitsu

め な か 檢元
Kaname

吉 唄 檢中
Utakiti
吉 政 檢東
Masakiti

方 地 部 戸 神



勢 若 檢中
Wakase
幸 吉 檢中
Kichiko

奴 ざ い 檢中
Itoyatuko

子 政 檢中
Masako
ら び ゑ 檢中
Ebira

神 戶 部 鳴 物



檢中
代 駒



檢中
金 若



檢中
梅 重八

檢中
奴 梅



檢中
奴 若



神 戶 部 地 方



子 鈴 檢中
Suzuko
榮 ね き 檢中
Kinue

子 き さ 檢中
Sakiko

子 靜 檢中
Shizuko
葉 吉 檢中
Kitiha

神 戸 部 鳴 物



檢中
奴 豆



檢中
彌 人 ぶ



檢中
子 人 之

檢中
代 千 豆



檢中
美 惠



神 戸 部 鳴 物



檢中
子 美 壽



檢中
代 千 松



檢中
津 喜 家

檢中
葉 梶



檢中
子 若



神 戸 部 踊 妓



元 検 元
Karuta
東 検 東
Ainosuke

東 検 東
Kintaro

中 検 中
Hanakatsu
中 検 中
Kaji

神 戸 部 踊 妓



中 検 中
Tonbo
東 検 東
Itiko

中 検 中
Yu

中 検 中
Motome
東 検 東
Mifuku

神 戸 部 踊 妓



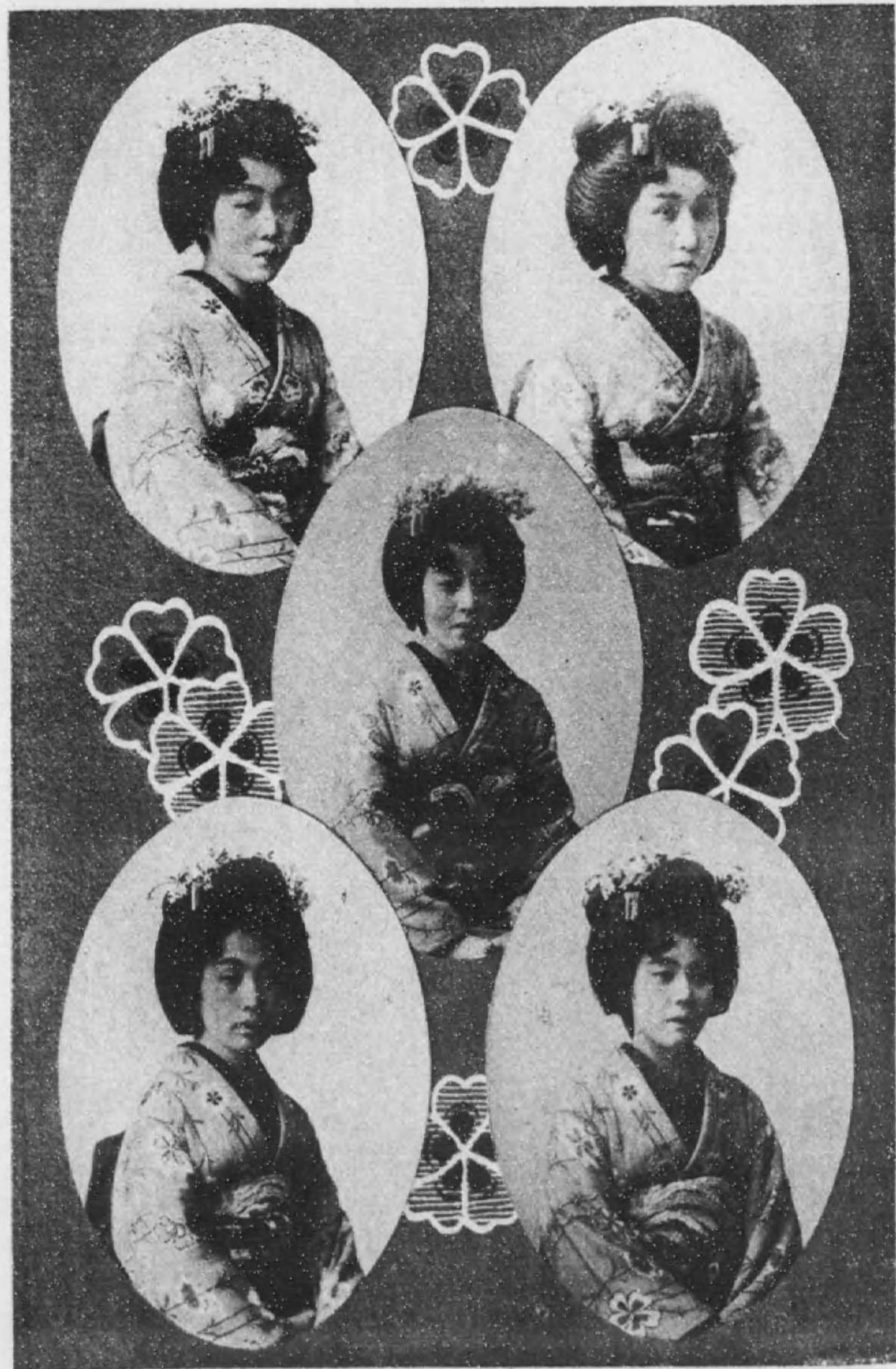
々 蝶 檢 東 Tiyotiyo	助 之 玉 檢 元 Tamanosuke	松 琴 檢 中 Kotomatsu
代 千 福 檢 中 Fukuttiyo		代 千 桃 檢 中 Momotiyo

神 戸 部 踊 妓



次 吉 檢 中 Kitiji	子 じ さ 檢 中 Toshiko	子 ぶ り 檢 中 Tieko
葉 笑 檢 中 Emiha		こ ら か 檢 中 Karako

神 戶 部 踊 妓



美 惠 檢 東	子 好 檢 東	廣 小 檢 元
Emi	Yoshiko	Kohiro
鶴 政 檢 元		代 千 君 檢 中
Masazuru		Kimitiyo

神 戶 部 踊 妓



駒 光 檢 中	三 美 須 檢 中	幸 梅 檢 中
Mitsukoma	Sumizo	Baiko
玉 花 檢 中		彌 金 檢 中
Hanataka		Kinya

神 戶 部 踊 妓



中 檢 政 菊 Masakiku	中 檢 吉 彌 Kitiya	東 檢 三 光 Sanko
東 檢 千 玉 Sentama		中 檢 太 郎 Shimetaro

神 戶 部 踊 妓



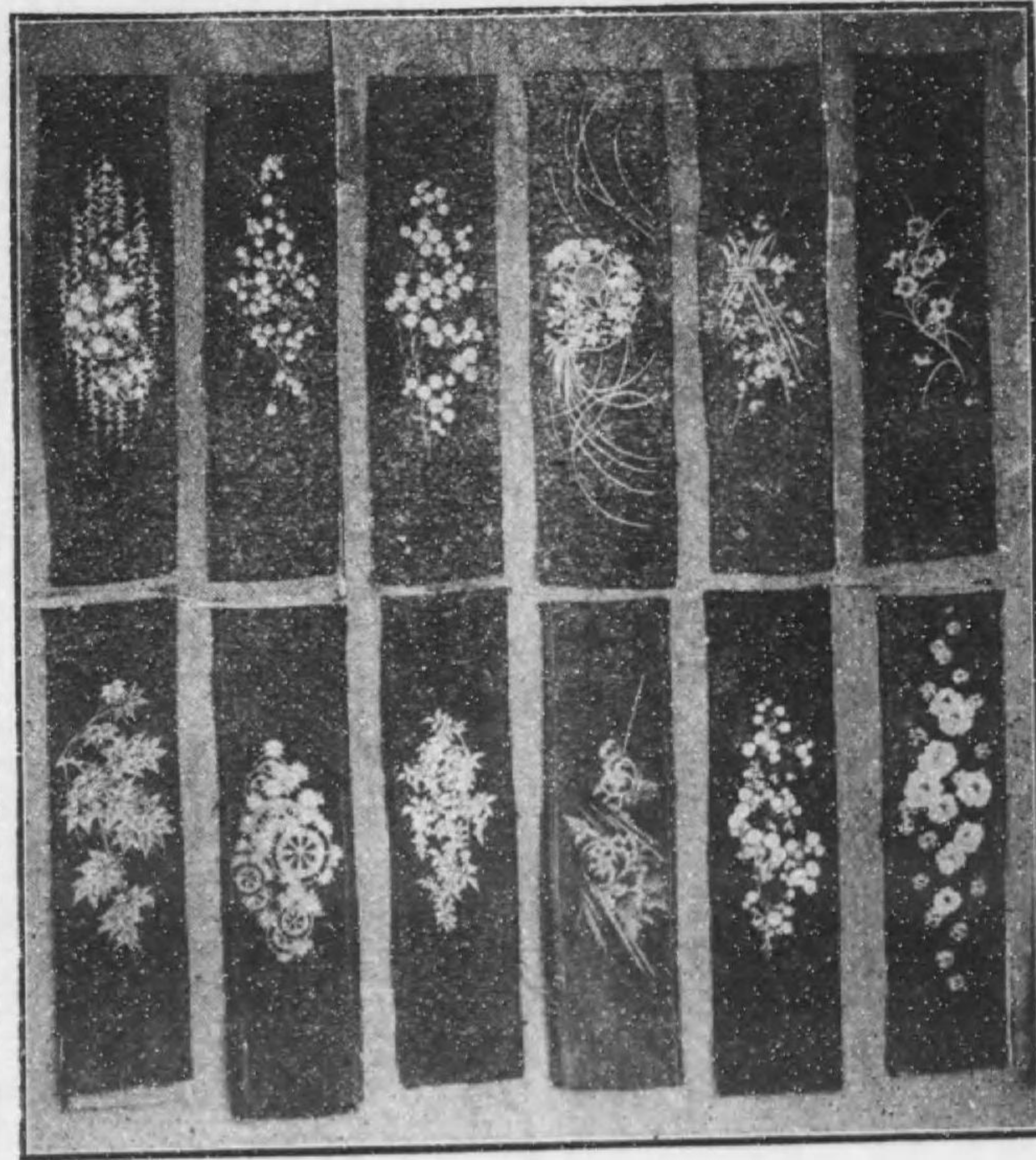
中 檢 小 歌 津 Kokatu	中 檢 花 千 代 Hanatiyo	中 檢 花 幸 Hanako
中 檢 万 千 代 Mantiyo		中 檢 梅 勇 Umeyu

神 戶 部 踊 妓



代	玉 檢 中	吉	高 檢 中	子	松 檢 中
	Tamayo		Takakiti	津	Matuko
榮	歌 檢 中				惠 檢 中
	Utac				Etu

新 柄 刺 繡 半 忍 り



半 忍 り ● 小 間 物

忍 り 卵

神 戶 元 町 五 丁 目 電 本 局 一 九 〇 八

御かもじ

小間物類

楠社西門筋菊の亭西隣

やぐら

●日本の美顔料

プリース化粧水

●日本の透明

やよひ水おしろい

●至ル處ニ協定發賣ス●

發賣元 前田賞美堂

神戸市下山手通四丁目



天ふら

純東京式



三ノ宮萬國館前

江戸天

大阪堂島濱通り

江戸天支店

志るま

湖月

本店 湊川新開地花房せり市横

中店間の踏切鐵道下角
東店 生田踏切一丁下の辻東入

琴・三味線・みつみ・太鼓



兵庫柳座東横二軒目

あ り ま

▲湊川踊の三味線は弊店の新調▼

▲各劇場用三味線張替専門▼



歐米米雜貨

大田洋物店

神戸元町五丁目

電話本局
三八四四

▲無代進呈▼

肺病、肪膜の大妙薬

淋病、(しよ)かち大妙薬

ふちん
ざろりん

人だすけのため五百人だけ、ごちらなりとも、
たゞで送りますから参銭切手一枚を手紙に入れ
て送って下さい、すぐ小包にして送り届けます

神戸市兵庫永澤町四の一五八

ゲズンド商會

實用新案 出願中 志賀式衛生帶上器

御婦人達が夏になつてお困りになるのは帶上の
(はて)の重くて暑くて肌着は勿論着物も汗でび
しょくになる點でしやう。もう御心配は有りませ
ん。志賀式衛生帶上器は中が空虚になつて居て、風
すきがよろしいのみならず帶のすれない様に脚が
けてあります。一度この帶上器を御使用になれば、
二度と再び今迄の(はて)に手が出ますまい。
御年齢に應じて人形と中形と小形と三種あつて一個
十九錢均一で共進會場内即賣部で販賣して居ります

神戸市兵庫東出町三丁目一七七

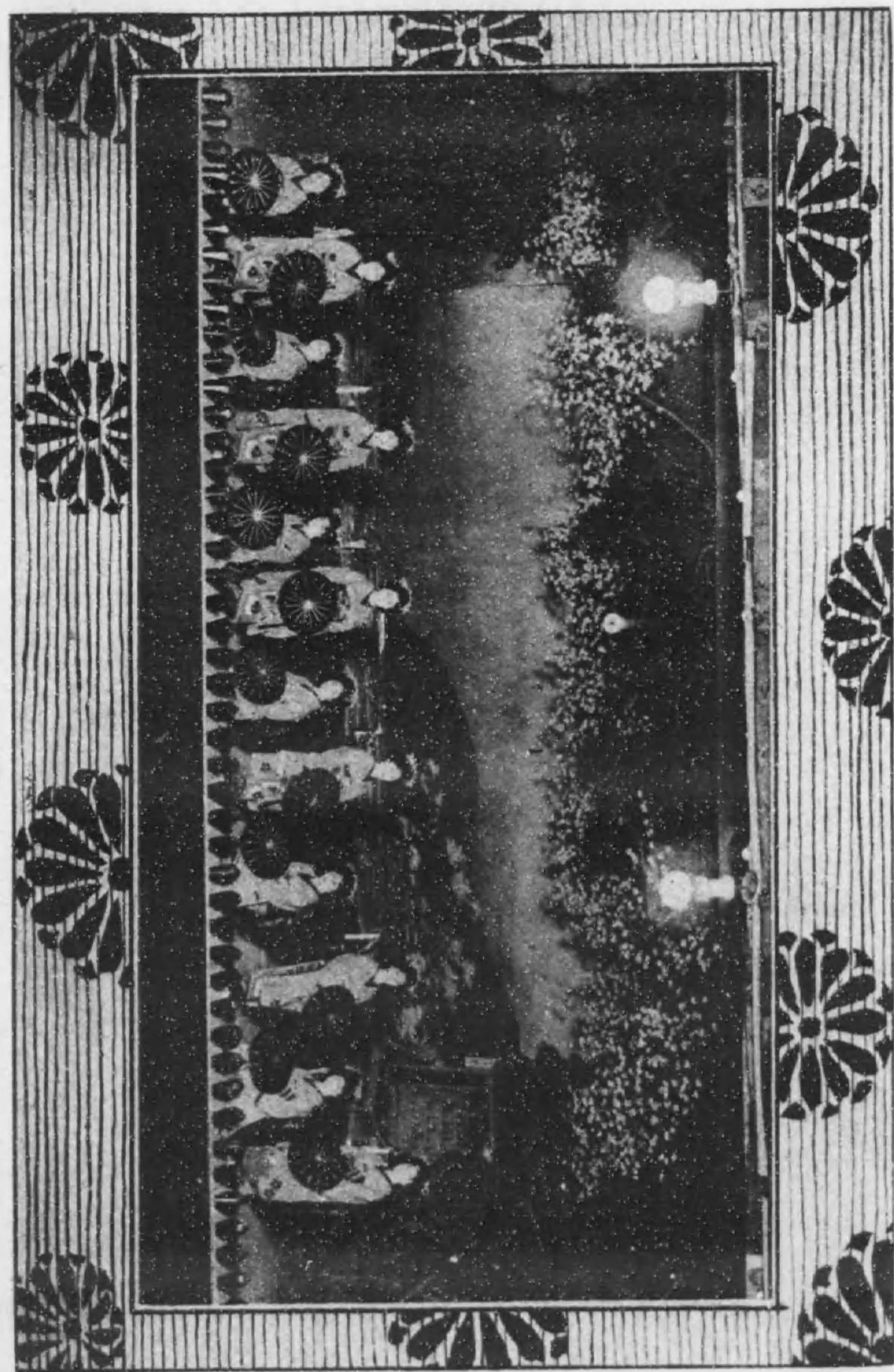
販賣元 入江嘉七郎

▲神戸市有馬道▼



南 道 之 助

▲電本局九一九番▼



伊勢二見之浦福原部出演者

最上醬油



天下一品

千葉縣野田町

茂木佐平治 釀造元

登錄商標



最上醬油

釀造元

千葉縣野田町

高梨兵左衛門

登錄商標



最上醬油

釀造元

千葉縣銚子町

深井吉兵衛

方 地 部 原 福



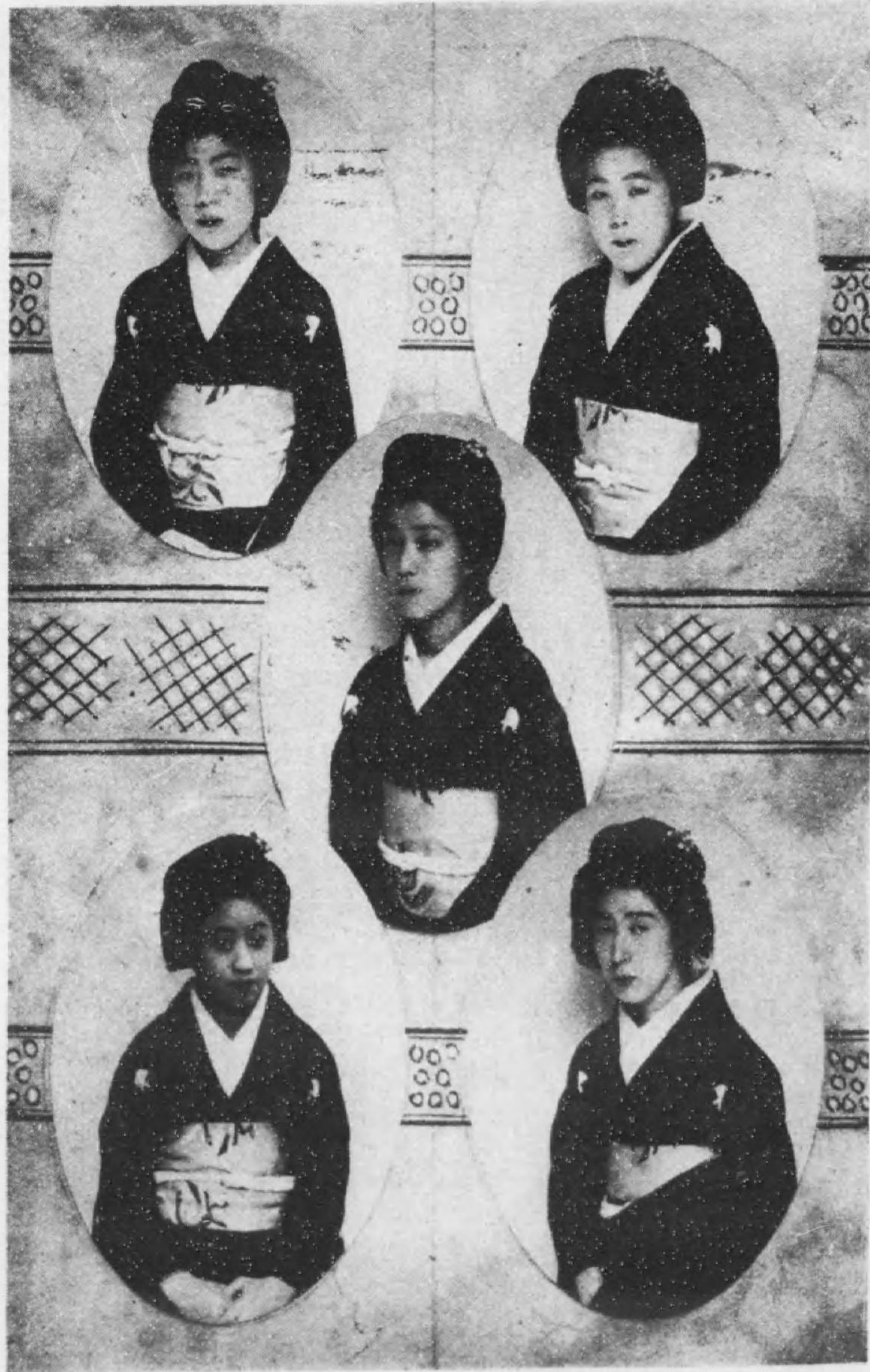
松 小 檢立共
Komatsu.
べ なら 檢立共
Onaba.
子 安 檢立共
Yasuko.
香 國 檢立共
Kunika.
八 梅 檢立共
Ujehati.

方 地 部 原 福



娘 久 富 檢立共
Fukumusume.
力 若 檢立共
Wakuriki.
代 千 玉 檢立共
Tamatiyo.
榮 芳 檢立共
Yoshie.
美 檢立共
Misa.

方 地 部 原 福



たるか 檢立共
 Karuta. 春 小 檢立共
 子 成 檢立共 Koharu.
 Nariko. 駒 長 檢立共
 彌 金 檢立共
 Kinya.

方 地 部 原 福



幸 檢立共
 Ko. 彌 咲 檢立共
 く ち 檢立共 Sakiya.
 Tiku. ゐのそ 檢立共
 Sonoe. 八 廣 檢立共
 Hirohati.

物 鳴 部 原 福



檢立共
ま ち い



檢立共
代 千 春



檢立共
丸 静

檢立共
丸 福 小



檢立共
幸 子



物 鳴 部 原 福



檢立共
く ら 一



檢立共
丸 静



檢立共
藏 し よ

檢立共
奴 た ま



檢立共
子 品



方 地 部 原 福
 んた瓢 Hiyotan. 奴 小 Koyatsuko.



妓 踊 演 出 部 原 福
 葉 松 Matsuba. 次 咲 Sakiji.

物 鳴 部 原 福



檢 立 共
 鈴 若



檢 立 共
 榮 政

物 鳴 部 原 柳



檢 本
 菊 梅



檢 本
 耶 太 萬

福原部踊妓



三	松	檢立共	子	梅	檢立共
	Matsuzo.		福多佐	Umeko.	
子	昌	檢立共	榮	若	檢立共
	Wakae.		Satafuku.	Masako.	

福原部踊妓



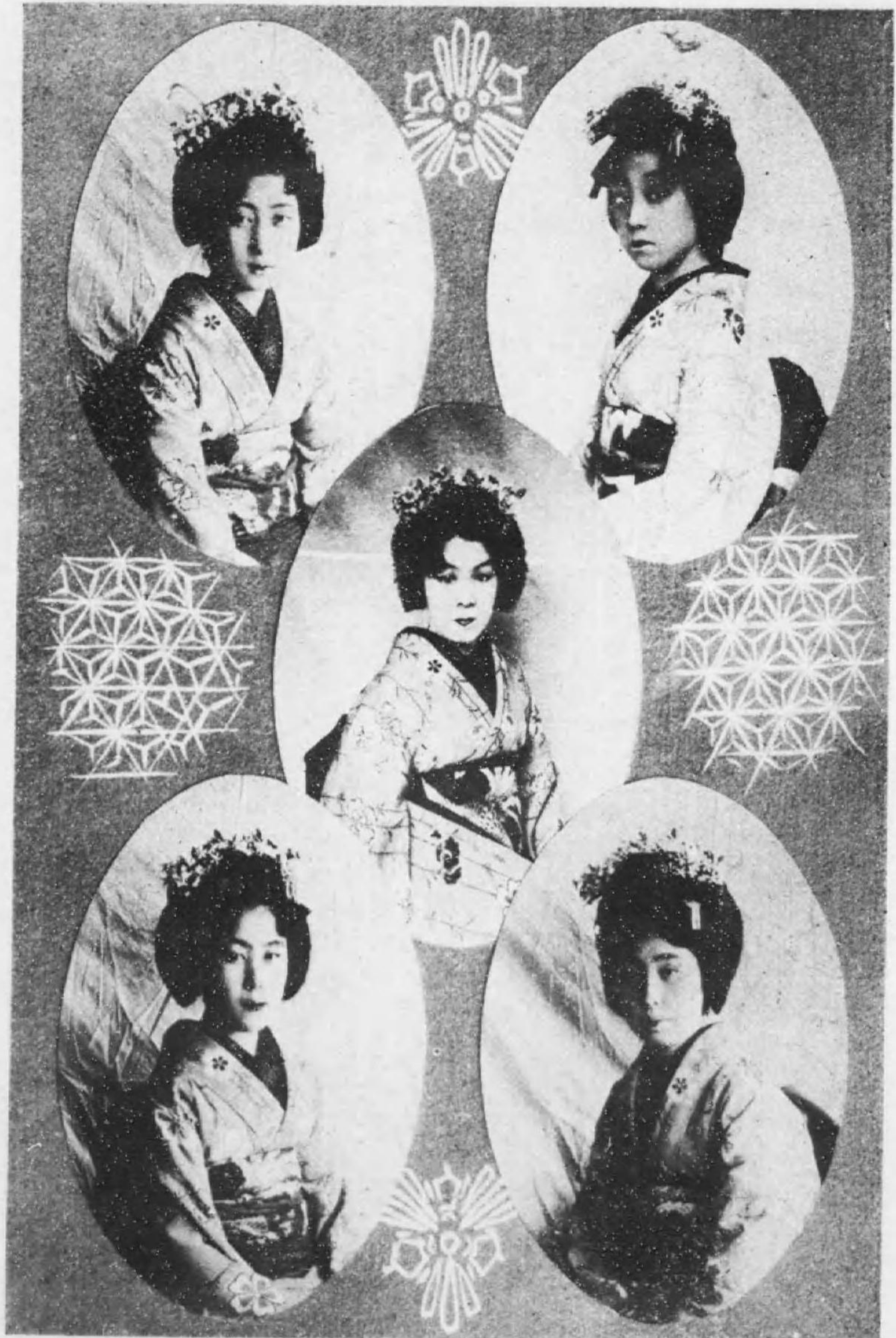
兩	千	檢立共	くさよ	檢立共
	Senriyo.		若	咲
秀	玉	檢立共	Sakiwaka.	なきと
	Tamahida.			Tokio.

福原部踊妓



彌	延	檢立共	榮	里	檢立共
	Enya.		龍	萬	檢立共
る	か	檢立共	Manriyo.	碌	元
	Karu.				Genroku.

福原部踊妓



い	若	檢立共	彌	忠	檢立共
	Wakaishi.		丸	福	檢立共
代	靜	檢立共	Fukumaru.	八	九十
	Shizuyo.				Tokuhati.

福原部踊妓



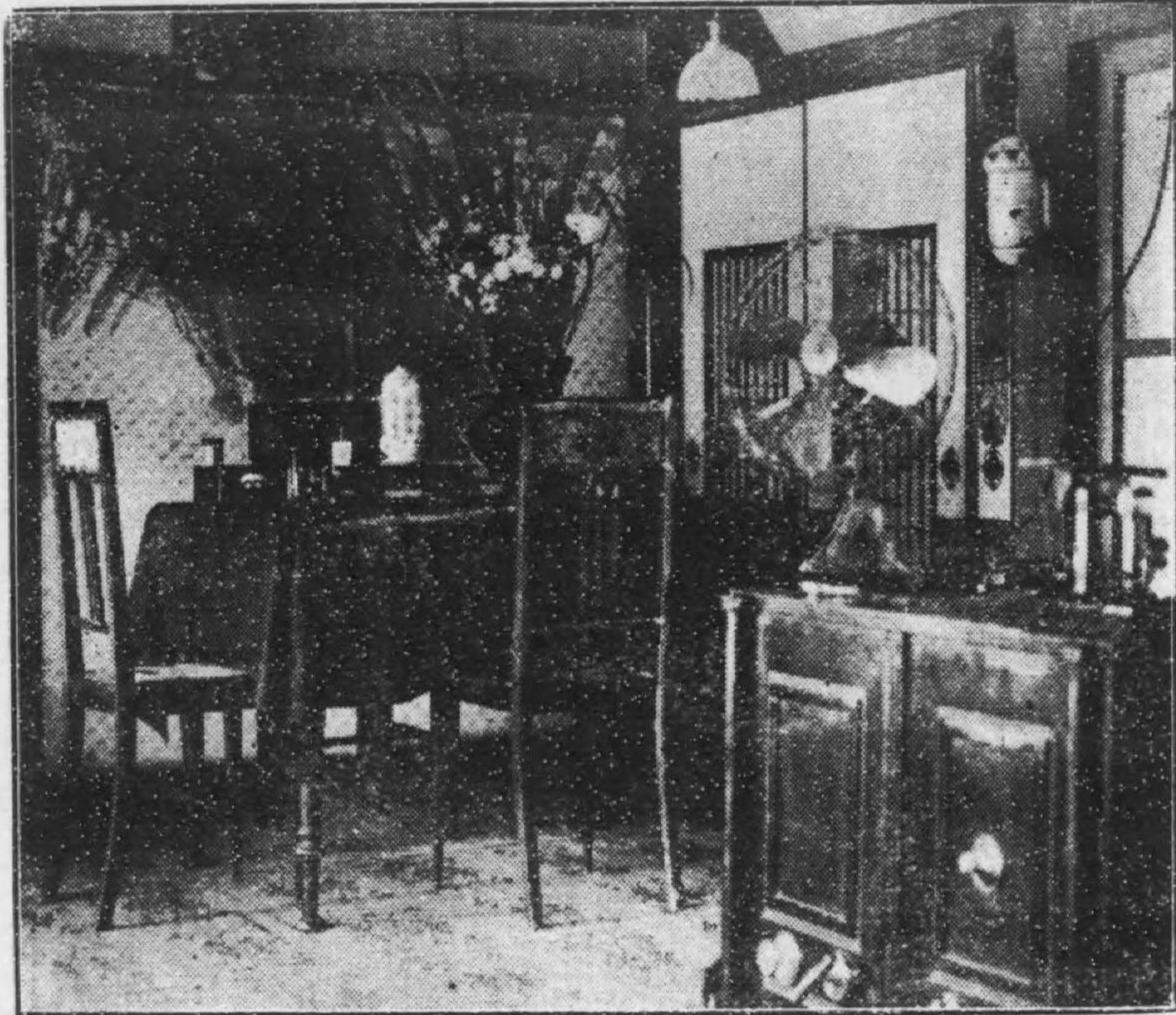
べんこ 檢立共 Tonbe. 也 三 檢立共 Sanya. 子七十 檢立共 Tonako. れみす 檢立共 Sumire. 三 梅 檢立共 Mumezo.

福原部踊妓



ま た 檢立共 Tama. 又 福 檢立共 Fukutama. 静 小 檢立共 Koshizu. 龍 金 檢立共 Kinriyo. 奴 貞 檢立共 Sadayatsuko.

◎號七七八九一第許特賣專 ■器淨清氣空生發素酸◎



圖ノ置裝(球スノゾオ)ニ室接應

球スノゾオ

製造發賣元

清氣合資會社

神戸

大阪

榮町四丁目電車通濱側
 電話本局三七〇九番
 振替大阪二〇九一九番
 北區堂島北町三二
 振替大阪一二四四番

▲▲内務省衛生試驗所長田原藥學博士有效證明
 ▲同生病院、緒方病院、大阪病院

定價 甲號 金參圓 乙號 金壹圓五拾錢
 (地方送料貳拾錢)

- ◎陽性酸素〓オゾン〓を發生するを
 以て……血液の循環を盛ならしめ消化作用
 を促し全身に活力を與へ頭腦を明快ならしむ
- ◎空氣を清淨し殺菌の效著しきを
 以て……呼吸器病者は勿論傳染病豫防等に
 用ひて頗る卓越せる效果あり
- ◎常に馥郁たる芳香を發散するを
 以て……清快を覺へ快感を興し身心の過勞
 を醫す
- ◎惡臭を除去するを
 以て……一般防臭劑の如く屢之を撒布する
 の煩を省き價も亦廉なり

妓踊部原福



子んさ 檢立共 Tonko.
 榮品 檢立共 Shinae.
 三 福 檢立共 Fukuzo.
 奴 花 檢立共 Hanayatsuko
 榮 勝 檢立共 Katsue.

香川縣小豆郡

醬油釀造家案內

堂錄商標



高橋 肇 四郎

堂錄商標



水野 邦次郎

堂錄商標



清水醬油株式會社

堂錄商標



小豆島醬油
製造株式會社

熊谷久榮堂書店

書籍・雜誌・參謀本部地圖

諸流謠曲本・鳩居堂香筆墨

神戸元町七丁目
電本局八〇三番
振替阪六四〇四

香川縣小豆郡

醬油釀造家案內



標商錄登

標商錄登

七高橋寛造

黒島傳四郎



標商錄登

標商錄登



小豆島醬油製
造同業組合
事務所
安田村七番地
電話 四七番

内海醬油株式會社



香川縣小豆郡

醬油釀造家案內



標商錄登

標商錄登

七高橋寛造

黒島傳四郎



標商錄登

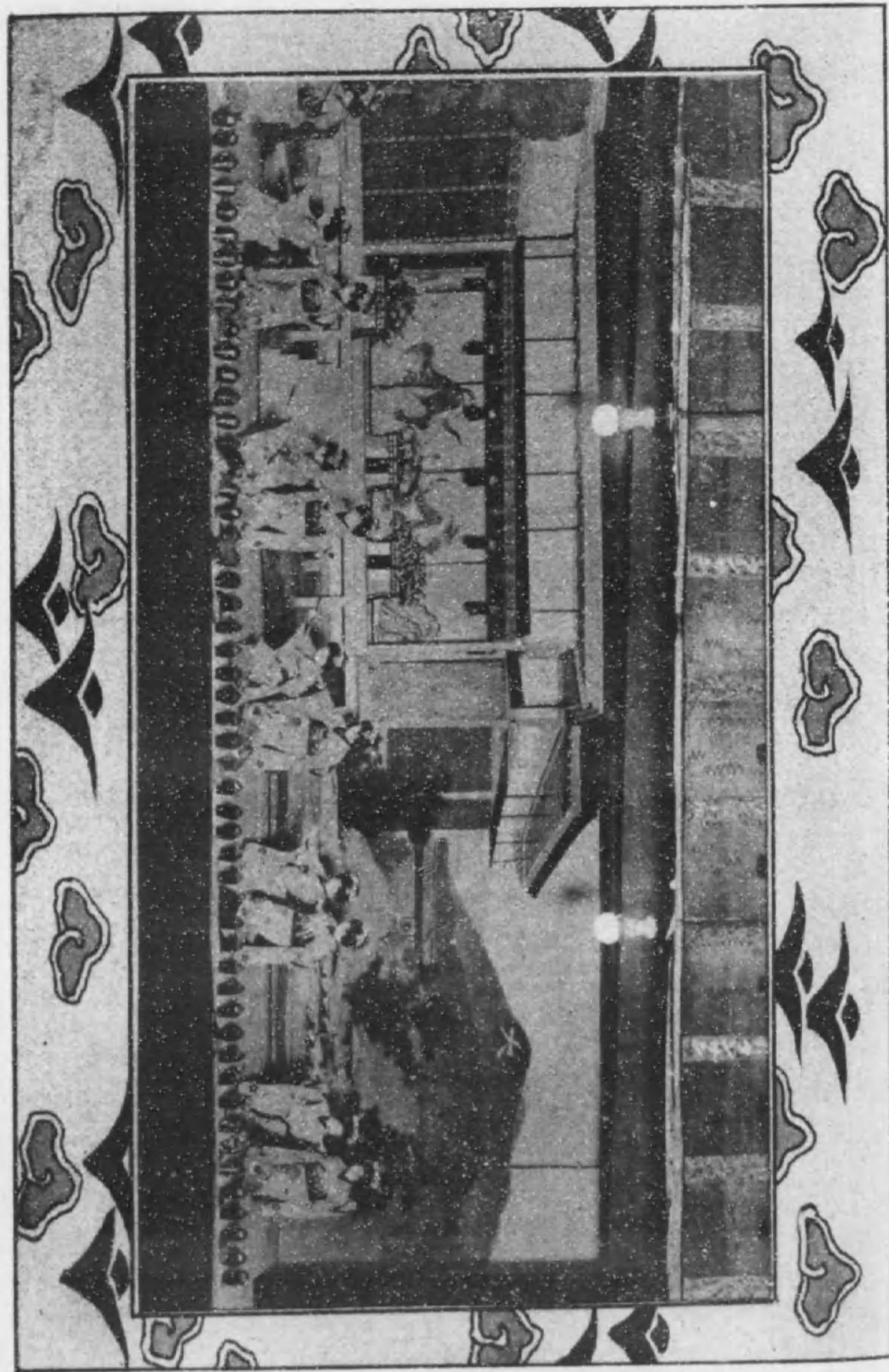
標商錄登



小豆島醬油製
造同業組合
事務所
安田村七番地
電話 四七番

内海醬油株式會社





京都御所之問之柳場原部出演者

會席御料理

神戸諏訪山
常盤東店
 電話本局四六六番
 神戸諏訪山
常盤中店
 電話本局長六二番
 三八六四番
 神戸諏訪山
常盤舎
 諏訪山支店
 電話本局六五二番

御菓菓子司

御參觀の節には
御立寄を願ます

本店

常盤堂

神戸市相生町四丁目
 電話本局一〇三〇番

共進會場内に休
 憩所の設備あり

方 地 部 原 柳



江 玉 檢日朝 Tamae	松 久 以 檢 本 Ikumatsu	繁 愛 檢 本 Aishige
羽 照 檢 本 Teruha		金 若 檢日朝 Wakakin

方 地 部 原 柳



勝 玉 檢日朝 Tamakan	歌 愛 檢 本 Aika	次 檢 本 Shimeji
い あ 檢 本 Ai		葉 一 檢 本 Itiha

方 地 部 原 柳



吾 金 檢 本
Kingo
羽 鶴 檢 本
Tsuruha

米 良 奈 檢 日 朝
Narayene

龍 二 檢 本
Niriyo
菊 若 檢 本
Wakagiku

方 地 部 原 柳



多 喜 檢 本
Kita
歌 檢 本
Uta

三 小 檢 本
Kosan

吉 花 檢 日 朝
Hanakivi
榮 良 奈 檢 日 朝
Narae

柳原部鳴物



檢本
代加



檢本
寶小



檢本
豆代千

檢本
仙若



檢日朝
駒照



柳原部地方



代子君 檢本
Kimichiyo
香代千 檢日朝
Chiyoka

奴 今 檢本
Imayatuko

要 檢本
Kaname
いべ金 檢日朝
Kinbei

柳原部鳴物



朝日君
葉



檢本
金小



檢本
丸若

檢本
榮若



檢本
勇玉



柳原部鳴物



檢本
々丸



檢本
げし小



檢本
葉の奈

檢本
丸力



檢本
幸良奈



柳原部踊妓



くろ 検日朝 Roku.	代千小 檢本 Kotyo.	幸良奈 檢本 Narako.
米良奈 檢日朝 Narayone.		葉若 檢本 Wakaha.

柳原部踊妓



子重八 檢本 Yaeko	政小 檢本 Komasa	勇照 檢日朝 Terayu
大 小 檢日朝 Kodai		子代千 檢本 Chiyoko

柳原部踊妓

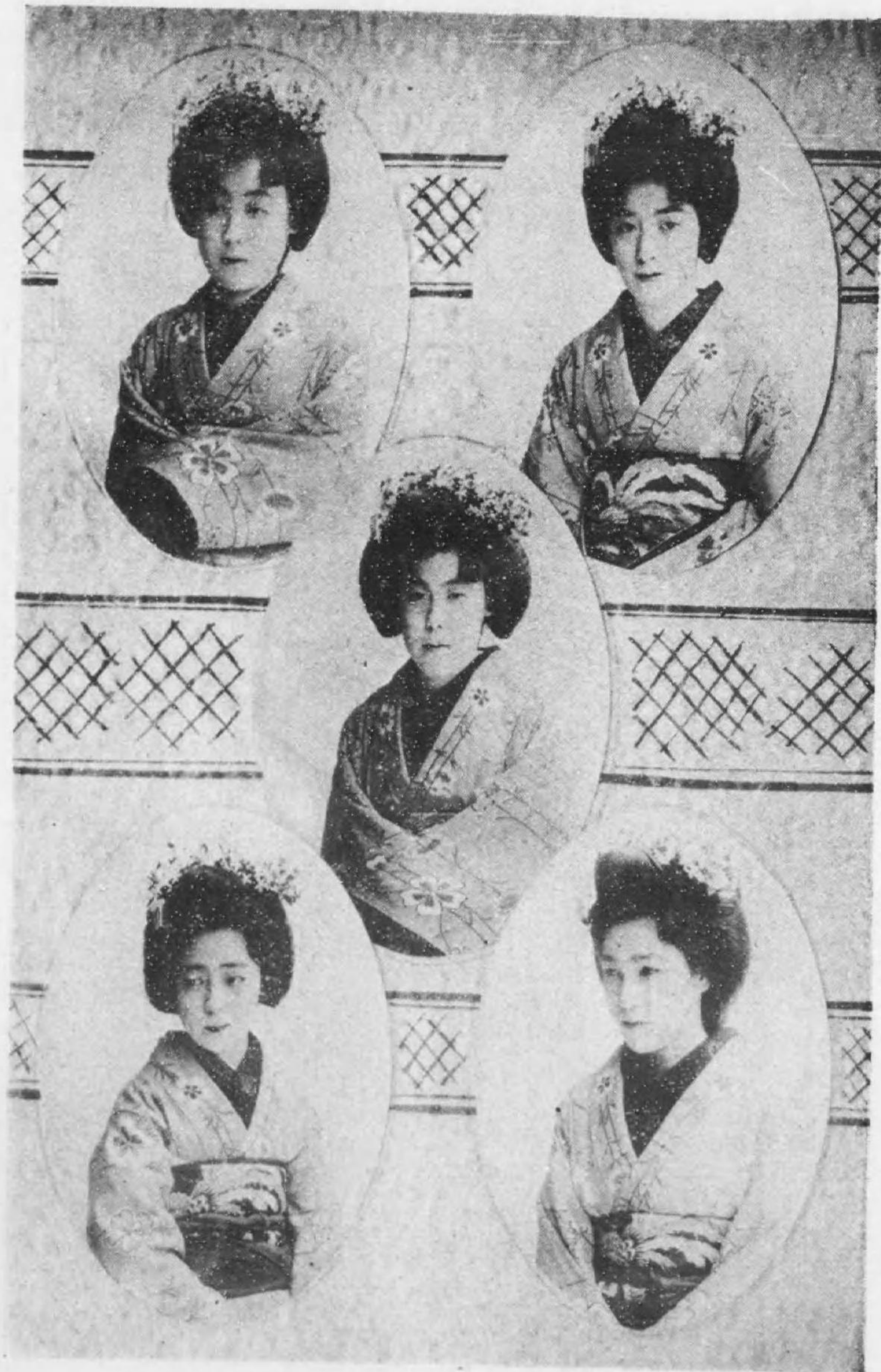


仙若檢本
Wakasen.
子々百檢本
Momoko.

幸成檢日朝
Nariji.
金

リ檢日朝
Riko.
小檢本
Kokin.

柳原部踊妓



宗正檢本
Masamune.
丸若檢日朝
Wakamaru.

玉百檢日朝
Momotama.

んき檢本
Kin.
かわ_レ檢本
Waka.

柳原部踊妓



朝日檢本 三葉 Mitsuba.
 朝日檢本 高小 Kotaka.
 朝日檢本 三力 Rikizo.
 朝日檢本 勇力 Rikiyu.
 朝日檢本 万太郎 Mantaro.

柳原部踊妓



朝日檢本 香鶴 Tsuruka.
 朝日檢本 力小 Koriki.
 朝日檢本 葉の奈 Nanoha.
 朝日檢本 代千君 Kimitiyo.
 朝日檢本 奴若 Wakayatsuko.

柳原部踊妓



鶴久檢本
Hisazuru.
松登以檢本
Itozatsu.

春小檢本
Koharu.

要檢本
Kaname.
駒照檢日朝
Terukoma.

柳原部踊妓



娘久富檢本
Fukumuzume.
鈴愛檢本
Aisuzu.

子鶴檢本
Tsuruko.

榮初檢日朝
Hatsue.
照小檢日朝
Koteru.



本 檢 米 菊 Yonekiku.
 朝 日 檢 里 菊 Satogiku.
 本 檢 小 繁 Koshige.
 朝 日 檢 奈 其 江 Narae.
 本 檢 方 丸 Rikimaru.

精肉 かひる すき焼

神 戸 湊 川

並ニ 會 席 御 料 理

西 洋 御 料 理

御 旅 館

浪 花

電話本局 二四八三
 四二七三
 旅館部 電話本局 四三二八

四月一日ヨリ御客室一圓ニ夜櫻ヲ植付ケ大ニ美觀ヲ呈シ
 候ニ付共進會へ御參觀ノ節ハ是非浪花へ御立寄アラン事
 ヲ奉希上候

御料理

兵庫湊町一丁目

常盤花壇

電話本局 長一七番
二四一番

會席御料理

神戸市兵庫大開通

音羽花壇

電話本局 長一九番
三四五二番

FUGETSUDO
CONFECTIONERY



風月堂

神戸市元町三通丁目
電話本局七八五番

▲元町通六丁目山側▼

浪花屋漆器店

各種漆器販賣

竝ニ新意匠品應需調製

會席御料理壽し

本家 何 新

電話本局 三六一四
八七六三
八五四一
番

兵庫湊町四丁目一三六
（湊川新開地電車
停留所半丁下）

西洋御料理

正直亭

神戸市相生町一丁目
字治川電車停留所角
電話本局四三九〇番

■安直でうまい■

■美味で安直■

倭歐御菓菓子司

神戸市元町三通丁目

角屋菓子店

魚鳥御料理

神戸福原町

か ね 正

電本局一五九

共進會
= 並 =
湊川踊

撮影御用を蒙る

平村寫真館

神戸市元町五丁目
電本局三三三四九番



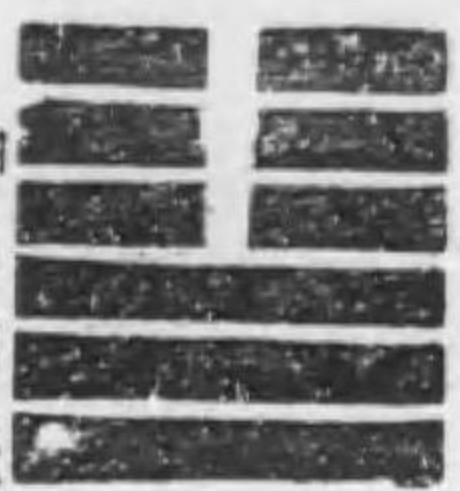
ヨドモ
モドモ
洋モ
腹ト
賣

神代丸西運亭目山角
十とともや

從五位
勳四等

高島吞象翁直門

▲主幹 高島 仙象



運命觀

神戸市兵庫湊町二丁目電氣燈筋

岸本銀行角北へ入ル

高島易斷關西本部

花柳病専門

ばい毒

よこね
かんそ
毛ぎれ

りん病

翠丸炎
消かち

脳神経衰弱症 記憶力減退

●診察毎日午前八時ヨリ午後九時迄●

神戸市相生橋東詰石段下

専門醫 生司院

神戸花柳界の沿革略史

- ▲神戸花柳界の淵源——▲中検査番——▲柳原兩検査番——▲共立検査番
- ▲東検査番——▲第二回湊川踊——▲湊川四季の寫繪——▲異彩
- ▲を放つ演舞場——▲踊妓の衣裳と頭

天地は艶陽の春となつて、爰暫く世界は花をもつて飾られる。六甲の翠霞を曳いて扇の海の波靜かなる處、到々として風暖く春の光の渡らぬ隈もない。この時に當つて我が神戸市には今秋京洛の地において御舉行相成るべき、今上御即位大典の紀念事業として第二回貿易製産品共進會が、花の彌生の二十日から向ふ六十日間華々しく開かれた、そしてその後庭においては第二回湊川踊がこれの餘興として扇港選り抜き的美妓連に依つて開演されてゐる。共進會が國內の貿易製産品の粹を集めて燦然たる錦繡の美を誇るものとすれば、嬌姿艶態、數十の美妓が紅の袖振り榮えて立ち舞ふべき湊川踊は正にこの錦上に一段の賑ひを添ゆるべき萬葉の華である。いまこの錦上の花たる湊川踊の説明を試みるに先立つ

て私は少しく扇港花柳界の歴史ともいふべき一項を加へ述べたいと思ふ。

▲神戸花柳界の淵源

神戸の花柳界は現今の兵庫がまだ南北十九丁、東方は湊川、西方は柳原を以て界とし僅かに西國街道の一驛路として存在してゐたに過ぎぬ頃において、早くもその源を發してゐる所謂『佐比江遊廓』これである。當時、佐比江遊廓は兵庫の東端湊町、總門を去る一丁半湊川堤防の一部に一廓を形成してゐたものでその外に土手下、磯野町及び眞光寺前などにも佐比江同様遊廓様式のものがあつて『兵庫番』の艶姿來往の旅人を腦殺してゐた。中にも『眞光寺前笹屋の八重菊』の嬌名の如きは「この妓香もある色もある」と唄はれて一夜泊りの遊子をして、後朝の別れに後髪曳かるゝ思ひあらしめた。それが文久三年時の與力番所の嚴重とあつてこれ等はすべて柳原の一箇所に集めらるゝことになつて、佐比江町の奈良屋、西川、佐野屋、赤源、播重、粉辰、山秀を初め、土手下の住吉屋、竹の屋、眞光寺前

の笹屋、橋本、磯野町の笹屋、明石屋などいふ大店は何れも柳原に移つた。そして奈良屋の主人佃佐平、推されて總取締となり、西柳原に「街店」東柳原と逆瀬川兩町に「送込み娼妓」が置かれた。當時傑出した藝娼妓としては前記笹屋の八重菊の外、藝妓には住友氏の愛妾となつた小力、秦銀兵衛氏の妻となつた千玉、故櫻井一久氏の戀女房として迎へられた奈良屋のお萬、及び故伊藤公の寵愛を一時一身に集めた同家の娘お末などがあり、その外にも一代の艶色を唄はれた名妓が少なくはなかつた、かくして次第に全盛を極めた柳原の花柳界は、やがて神戸に幾多の藝妓置屋、檢番等を生せしむるに至つた、大なる動機となつたのである。

▲中 檢 番

神戸の檢番といへば何うしても中檢を第一に書かねばならぬ。中檢は去る明治八年別所長之助、廣澤三四郎の兩人が發起で、當時の鐵屋、火の用心、山田屋などの各置屋の藝妓を

集めて元町六丁目に中検査といふものを設立したのが抑もで、これが神戸に検査と稱して打つて出た初めてである。これより先き柳原には勿論これに類似したものはあつたけれどもそれは單に藝妓置屋といふに過ぎなかつたのである。かくして中検査は神戸港の開發と共に漸を追ふて發展の歩を進め、その後再三場所を轉じて、目下の處に移つたので、現今では何といつても神戸の代表的検査として、所謂この道の通の間には遍く知られてゐる。そして扇港花柳界の重鎮として三百有餘の美妓を有し、鶯習會一派の白切符を中堅として堂々紅陣を張るもの、眞にその勢力や恐るべきものがある。而して昨年十一月名儀人の一人たる別所長之助を失ひ同時に廣澤三四郎もその職を辭して、廣澤新造名儀人を襲ふに至つたけれど、これ等は何等中検査に支障を興へることなく愈よその基礎を固め、同時に子方屋組合の組織を見るやうになつた。そして從來六名であつた役員を十五名に増加して益々その根底を深くし、榎茂都扇性に依つて教へらるゝ舞踊は更に同検査の聲名を高め、川上福子、水野鑄子に依つて指南さるゝ鳴物、長唄は愈よ同検査藝妓に藝術の光を添わた。いまや

中検査は神戸の中検査でなくして日本の中検査である。西より東より神戸に來り神戸を去る所謂紳士紳商にして、足一度折花攀柳の巷に入れば、必ずやまづ中検査藝妓の名が口を銜いて出づるであらう、それだけ中検査の名は賣れてゐるのである。

▲柳原兩檢

神戸における検査の濫觴は中検査であるけれど、藝妓の歴史からいへば柳原が最も古く、最も長い生命を有し來つた。柳原が検査として起つ以前、柳原には彼の佐比江から移つた幾多の紅裙連と「送込み娼妓」があつた。然るに中検査の藝妓が次第にその名を唄はるゝに及んで、柳原にも播本勝藏といふ人が柳原檢なるものを設立し、これと共に笹春の手で柳原にも中検査といふものが出來、柳原檢はその後淀川の所有となつて淀検査と改稱したが幾若もなくして、この淀検査と中検査とは合併して、當時柳原の一方に勝田、西川その他に依つて組織された朝日検査と對抗するやうになつたので、これが現今の本検査及び朝日検査の最初である

その後、昨年二月、この兩檢の子方屋が協議の末子方屋組合が組織され今日では兩檢百餘名の藝妓を有し兩檢とも、各自その發展のために努力し、舞踊の如きも本檢は子方屋組合の一部を練習場に、朝日檢は糸竹會なる會名の下に、前者は西川石松派、後者は西川嘉義の流れを酌んで、相異つた姿態ではあるけれど熱心に稽古を積んでゐる。

▲共立檢番

故伊藤公が兵庫縣令として神戸へ乗込んだ頃、當時「おちやら」といつてゐた一種の娼妓を、一括して辨天濱の西に居らしめ茲に一つの廓を設けた。この廓が明治四年に湊川土堤下一帯の地に移されて、今の福原遊廓を形成するに至つた。同時に當時貸座敷組合の附屬事業として既に存在して居た檢番があつた、明治二十五年の秋子方屋の一人渡邊庄吉は檢番役員と意見の衝突から奮然同檢を去つて新檢番を起し料理屋のみを取引先きと定め大競争を開始したので自然の中に一は舊檢と命名さるゝに至つたのである、その後舊檢が分

れて集紅舎、福檢となつた。幾若もなくして新檢、集紅舎、福檢の一部は別に合して一檢番を組織し南檢と稱して茲に福原に四檢番相對立するに至つた、それが去る大正元年五月に及んで合併して拾五萬圓の株式會社組織になり、共立檢と改つて目下の状態となつたので、一時福檢の一部はこの合併に反對して「直取引」をやつてゐたが、終ひにこれに加はるやうになつた。これが共立檢の由來である。だから共立檢は他檢番に比して藝妓數最も多く、いまや五百餘名の美妓を有して日を追ふて全盛を加へ、同時に子方屋組合の成立を見るに至つてからは、演舞場を設けて長唄に杵屋三也、鳴物に六合新二郎、踊に西川歌義の各師匠を迎へて藝術獎勵に努めた結果、昔日の四檢番對立時代とは全く面目を異にし、將來、中檢と共に扇港花柳界の一方に覇を稱するものは、必ずや共立檢でなくてはならぬと囑望されてゐる。

▲東檢番

東檢は元木村福造の所有として三宮町二丁目に置かれてあつた。當時の東檢は藝妓の頭數も四十餘名に過ぎぬ微々たるものに過ぎなかつたが、その後、他檢番の隆盛と共に東檢にも革命の時が至つた。即ち大正元年十一月に設けられた同檢子方屋組合の組織はその革命の奮起の鐘が突き鳴らされた第一杵で、同時に資金拾壹萬圓の合資會社となつて、目下の處に移つたのは、その第二杵とも見るべき改革の實である。かくして面目を一新した東檢は従つて藝妓數の増加を見るに至り、今では百餘名の藝妓を有し、これまた神戸花柳界一方に一勢力を有するに至つた。これと共に從來殆んど閑却されてゐたともいふべき藝術に對する研究問題は同檢の發達と共に子方屋組合から唱へられ、昨年来、檢番の一部を藝術研究所に充て、舞踊を小西春雨、長唄を水野とうの擔當として藝妓に練習せしめるやうになつた、これに依つて東檢の風紀は著しく革り、藝術は着々向上して、今や將に、大いにその發展の歩を進めてゐる。殊に昨年十二月から定められた抱入藝妓の藝術試験制度は將來同檢をして更に進歩向上せしむべき最善の方法で、同檢當事者が、藝術の方面に注意

を拂ひ、同時に藝妓の風紀問題に注目し出した點は多とすべきである。

▲第二回湊川踊

湊川踊は先年第一回貿易製産品共進會が開かれた際初めて『湊川踊』といふ名稱のもとに計劃され、そして第一回共進會の開期中、その餘興として演ぜられ空前の大當りをとつた第二回湊川踊も前回同様の意味において、即ち共進會主催者側の商工會と聯合檢番委員との合議に依つて、會期中の共進會の賑ひに華を添へるため、いま一つは各檢藝妓の藝術發展の一方法として計劃されたものである、同時に京都なる斯道の大家猪熊淺磨氏にその作歌を依頼し、一方共進會々場の後庭に七千五百圓を投じて宏壯美麗な演舞場を建築した。そしてこれが神戸部（中、元、東三檢）福原部（共立檢）柳原部（本、朝日兩檢）各選抜きの美妓に依つて演ぜられることになつたので、その間演舞場の計設衣裳の選擇、各部振付師匠の選定など、檢番側の苦心と努力とは決して少ないものではなかつた。

▲湊川四季の寫繪

猪熊氏の手に依つて作られたる『湊川四季の寫繪』と題する唄は湊川踊委員の注文に依る長田神社、清盛塚、琵琶塚、須磨前田の杜若、月見山の武庫離宮、藤の茶屋、兵神兩港の夜景、京都御所、春日神社、宇佐八幡、伊勢神宮、二見の浦を讀込んだもので舞臺は左の如くである。

第一、『昔の湊川』百年前の湊川の傍を見せた銀地襖を建て、湊川踊の意を現し同時に本行はせられる御大禮を祝ひ奉る意味を含ましたものである。

第二、『長田の追儺式』有名な長田神社の悪魔拂ひの古式に因み、神功皇后三韓征伐の由緒を偲ばし、悪魔拂ひの意とあつて餅花に橘多數結び付けたのを飾る。

第三、『梅の清盛塚』は福原遷都の昔を偲んで平相國の古塚に琵琶塚を配ひ、紅梅白梅笑み初めた風情を添えて春を利かした美しい場面である。

第四、『須磨の初夏』正面に武庫離宮の遠見、右手に藤の茶屋、左手に前田の杜若、稍離れて松風村雨堂と青葉の頃における須磨附近の諸名所を一望に集めたもの。

第五、『春日の螢』は納まる御代を祝いて三社詣の随一と本年の勅題社頭の杉に因んで春日神社の杉の境内を見せたものである。

第六、『禁中の七夕』禁裡の面影を見せたもので御簾、勾欄、金具などは何れも實物に模して美々しく、高雅な舞臺面を見せる、尙この場の踊妓の持物は、徳川時代に近衛家から七夕の日禁裡に献上された花扇で、長さ三尺、尾花、桔梗、女郎花、仙翁、蓮小車菊などで飾られた美しいものである。

第七、『九重の盃蘭盆』は左方に皇内虎の間から渡殿へかけた御殿造りに、飾り花として盃蘭盆會の日、女御を初め公卿、殿上人竝に女官達から献上した多數の燈籠を見せ右方に常御殿の庭前を配し、遙かに見ゆる如意ヶ嶽には送火の大文字を電燈で現はすなど頗る凝つたものである。

第八、『月の扇港』は兵神兩港の月の夜に出船入船の賑ひを見せたキネオラマしき夜景の美

第九、『宇佐八幡の雪』は三社詣り第二の心を利かして雪の宇佐八幡を見せ、石燈籠大華表、玉垣、樹立に皚々として白妙の雪降り積る社頭の絶景。

第十、『神宮神苑の春』でこれまた三社詣第三の心にて、内宮の神苑、神寂び渡つた春景色である。

第十一、『花の二見浦』桜花咲き満ちた二見浦の春景色、波納つた海の彼方から仕掛で昇る旭影に聖代の祥瑞を現はした美観である。

▲異彩を放つ演舞場

まづ演舞場は入母屋造りの二階建、高さ三十六尺の軒高く破風を配らひ正面の左右は観覧券發賣所、中央は二間幅の車寄に續いて入口、這入ると階下の観覧席は縦四列の椅子席で

前方から後方へ三等席、二等席、一等席と區劃され、兩側には三尺幅、中央には一尺五寸幅三筋の通路を設けて、観客の出入に便ならしめた。兩花道の後方は何れも一段高く地方席に充てられて、玉簾の中から絃歌湧く。舞臺は間口八間、奥行七間の大舞臺で左右に道具の引込を設け、その他踊妓の休憩所、観客休憩所、茶席など短期興行には惜しい程細かく行届いた設計に依つて建築された。二階には座席とした観覧席の外、事務所の設けがあり、観覧席は六段になつて特等席、一等席に充てられてゐる。そして貴賓來臨の際は便宜その中央を劃して貴賓席に充てる筈である。場内場外は何れも裝飾の贅を盡し、無数の花電燈に綺羅を飾つて、燦然として共進會々場内に異彩を放つてゐる。

▲踊妓の衣裳と頭

さてこの晴の舞臺に立つて晴れの歌舞を演ずるものは神戸部 人(踊妓二組、地方三組、鳴物二組) 福原部 人(踊妓、地方、鳴物各二組) 柳原部 人(踊妓二組、鳴物一組)

地方一組及補缺半組)で、各部一日交替の晝夜三回(日曜祭日は四回)開演で、神戸部は振付を榎茂都扇性、鳴物を川上福子、三味を水野鑄子、福原部は振付を花柳芳三、鳴物六合新二郎、三味杵屋三也、柳原部は振付若柳壽童、鳴物川上福子、三味杵屋勝吉と各々異つた師匠について教わられた。鳴物と三味とはそれより先き福原鶴三郎、杵屋佐吉の兩人に依つて手を付けられたのを各部の師匠が受け継いで出方に傳へたのであるけれども、振付に至つては各部擔任の師匠が何れも考案に考案を重ねた結果編み出したもので、各々相異つた姿態の妙味がある。そしてこれに用ひる衣裳はかねて各呉服店からこれが圖案を募集し委員の手において審査の結果、踊妓と鳴物は濃い茄子色の縮緬地に糸櫻の肩模様、前身の裾には約二尺の古代型の大蝶々を現はし、後身には花桐を配ひ、その間には巻雲を散した。糸櫻は匹田鹿の子の染模様、巻雲は青と紫の配合よきを用ゐ、裏地は古代朱の葵七寶で高雅優艶眼も醒める計りである、帯は糸錦織の洗朱、桐と竹との地模様を浮し、これを箱文庫に結び、一尺二寸一杯に鳳凰を組合せ、織出には神戸市の徽章と半菊を現した湊

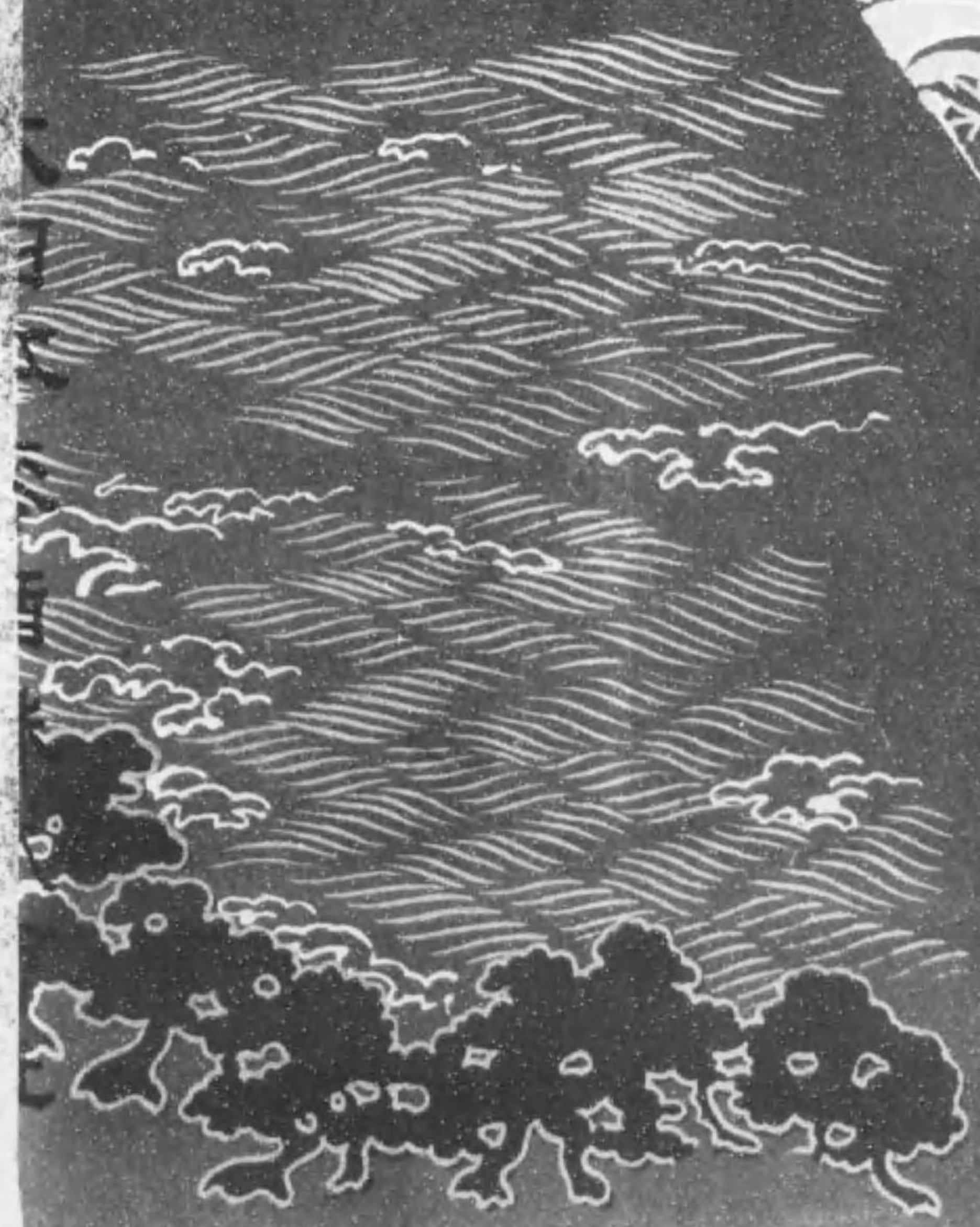
川踊の徽章を見せてゐる。地方は湊川踊徽章入の五つ紋附、白抜き蝶々の片襖模様で、帯は納戸色を用ひ模様は踊妓のそれと同じである。尙、踊妓と鳴物の頭は何れも結綿に緋鹿の子を掛け、菊の摘み五段に金色の蝶を配らつた花櫛これと、同様の花簪美しく地方は一同島田である。かくして演せられる『湊川踊』はこれを以て扇港藝妓が代表的歌舞といふべく、これを彼の都踊、浪花踊、芦邊踊などに比して、決して毫も遜色なきは吾人の信じて疑はぬ處である。

アサヒビール

ミネラルウォーター

清涼飲料

ミネラル



神戶印刷所印

終